



社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2010 7-8 月号

【第44回通常総会報告】

理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

【特別講演】

メディアから見た日本の社会保障

【企業トップセミナー】

「夢」と「気」多元的世界観を持とう

【文 芸】

「名古屋市営バス135号線」

【随 筆】

景雲飛翔

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

パズル

No.436

発行 社団法人名古屋工業会

(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>



平成22年度 名古屋支部の“総会と見学会”

平成22年度名古屋支部の総会と見学会を次の通り開催致します。

会員の皆様（家族同伴可）はふるってご参加下さい。

記

1. 日 時：平成22年9月18日（土） 8:15栄テレビ塔北 観光バス駐車場に集合
2. 行 程：栄（8:30）→春日ホテル*（総会・昼食）（11:30～13:30）→
興福寺国宝館**（13:35～14:20）→平安遷都1300年祭***（14:30～15:45）→
栄テレビ塔（18:45頃）
* 奈良公園の玄関口に位置し観光には最適。奈良の郷土食をとり入れた季節の会席料理、四季の風情が楽しめます。
** 千手観音菩薩立像や阿修羅像をはじめとした国宝・重要文化財が多数展示されています。
*** 我が国を代表する文化遺産「平城宮跡」を舞台に、古代からの友好的な国際交流にも焦点を当てながら、平城京の歴史・文化や国づくりに関する様々な展示・催事が展開されています。
3. 会 費：1名 6,000円（同伴家族も同じ。小学生は半額）
4. 申込先：次の単科会連絡幹事へ。締切は8月10日（水）、先着160名まで。

C E 会	河合 秀樹（C59）	TEL 052-796-0130	名晶会	小山 敏幸（K61）	TEL 052-735-5124
光鱈会	宇佐美智伯（A⑥）	TEL 052-704-6137	計測会	大鑄 史男（F49）	TEL 052-735-5393
巴 会	杉山 耕一（M⑥）	TEL 0562-55-7772	経友会	仁科 健（B50）	TEL 052-735-5396
電影会	三宅 正人（E60）	TEL 090-3581-4472	情友会	石橋 豊（J56）	TEL 052-735-5440
双友会	泉地 正章（W44）	TEL 052-837-7271	翼 会	小鹿 良雄（K23）	TEL 0561-72-4071
緑 会	緑 静男（D42）	TEL 059-232-1829	D F 会	渡辺 秋義（S17）	TEL 052-701-5825
名窯会	道家 清正（Y30）	TEL 052-912-3492			

支部連絡先：

緑 静男

TEL 059-232-1829 / Email mgsar10@jupiter.ocn.ne.jp

北川慎也（名古屋工業大学大学院しくみ領域）

TEL 052-735-5368 / FAX052-735-5368 / Email midori_jimu@ach.nitech.ac.jp

《 総 会 と 見 学 会 の 注 意 事 項 》

1. 当日および前日のキャンセルは、参加費の払い戻しができません。
2. ご担当者は、参加者名簿を事前に支部連絡先まで必ず提出してください。
3. 開催に関するお問い合わせ、緊急の場合など開催直前のご連絡は、以下の旅行会社までお願い致します。

旅行社：名鉄観光バス(株)名古屋支店

担 当：東山 美雪

住 所：名古屋市中川区中京南通り2-7

電 話：052-354-6909

FAX：052-363-0210

表紙写真説明

「イラスト風」

撮影者 黒柳 奨 (EJ③)

第44回通常総会報告

社団法人名古屋工業会第44回通常総会が、平成22年5月29日(土) 午後2時から高橋実学長のご臨席を賜り、会員174名が出席し中日パレスにおいて開催された。

総会に先立ち、21年度にご逝去された111名の会員物故者のご冥福を祈り、出席者全員で1分間の黙祷を捧げた。

総会は二枚常務理事の司会で篠田理事長の開会挨拶に始まり、高橋学長の会長挨拶の後、篠田理事長の議長で議事を行い、提案された議案を異議なく承認された。

今年度は役員改選の年に当たり、選出された新理事により理事会が開催され、定款第14条により理事長・副理事長並びに常務理事を互選により選出し、その結果を総会で報告された。新役員を代表して、篠田陽史理事長から挨拶があった。

次に総会行事として、理事長から叙勲・褒章受賞者に記念品、母校退職職員に感謝状と記念品、会員で卒業満70・60・50周年の出席者に記念品の贈呈があった。なお、卒満対象者のうち欠席者で総会委任状の提出者には、後日記念品を送付することとした。

その後開催された特別講演会は、仁科健参事の司会により、東京新聞・中日新聞論説委員の日比野守男氏から「メディアから見た日本の社会保障」という演題で講演をいただき、参加者に大変好評であった。

会場を移して17時から懇親会が開催され、張田新副理事長の司会で市橋前副理事長の挨拶の後北村副学長から挨拶を頂き、小田前副理事長の乾杯により開会された。

杯を交わしながら、名工大ギターアンサンブル部による演奏の中で名刺交換等旧交を温めるうちに時間も過ぎ、木越新副理事長の中締めの後恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い河辺前副理事長の締めにより閉会とした。

平成22年5月29日

会員各位

社団法人 名古屋工業会
理 事 長 篠 田 陽 史

第44回通常総会報告及び決議ご通知

平成22年5月29日(土) 開催の社団法人名古屋工業会総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。



総会風景



感謝状と記念品贈呈

第44回通常総会次第

1. **理事長挨拶** 篠田陽史 社団法人名古屋工業会理事長
2. **学長挨拶** 高橋 実 国立大学法人名古屋工業大学学長
3. **議 事**

(決議事項)

- 第1号議案 平成21年度事業報告並びに収支決算報告について
- 第2号議案 平成22年度事業計画並びに収支予算案について
- 第3号議案 役員の改選について
- 第4号議案 公益法人制度改革対応について
- 第5号議案 支部に関する規程の一部改訂について(報告)
- 第6号議案 その他

4. 行 事

イ 叙勲・褒章等受賞者へ記念品贈呈(敬称略)

松浦 聖 C28 寺村善美 C32 保母金朗 E35 宇野俊泰 C37

ロ 名古屋工業大学退職教職員へ感謝状と記念品贈呈(敬称略)

(退職教官) 土井 稔 若山 滋 日野安昭 南後 守 坂本 功 伊藤英則
田中清明 松井憲一 大岩紀生 立光 斉 山田正明

(退職事務官) 柳野友栄 今枝正仁 三木 順 三田将貴 伊藤末光 中山 深
矢島すみ江 宮田正吾

ハ 名古屋工業大学卒業満70、60、50、周年の会員へ記念品贈呈(敬称略)

(70年一昭和15年卒) -15名

C 川上都止夫 始4名 A 大野忠義 始2名 M 伊藤一藏 始6名 E 奥田滋
W 伊藤隆博 D 岡野利行

(60年一昭和25年卒) -37名

C 下元保重 始8名 A 白石宣和 始2名 M 芝原宏 始6名 E 荻野孝 始11名
W 山田昭郎 D 浅井富保 始7名 Y 小林慶一 K 小林茂

(50年一昭和35年卒) -125名

C 森下是治 始16名 A 小島克彦 始16名 M 星野三郎 始24名 E 藺田耕一 始17名
W 日比貞雄 始10名 D 中道春樹 始28名 Y 黒田勉吉 始8名 K 中村善吉 始6名

ニ 特別講演

講師：日比野守男氏 東京新聞・中日新聞論説委員

演題：「メディアから見た日本の社会保障」

5. 懇親パーティー



感謝状と記念品贈呈



懇親パーティー

理事長挨拶

社団法人名古屋工業会

理事長 篠田 陽史 (M33)

まず最初に会員の皆様に高橋新学長を紹介させていただくとともに、本会の会長として就任頂く事大変光栄に感じております。

また、御来賓として多数の先生方にも御出席いただき、これまた光栄に感ずるところであります。

さて本日会員の皆様には、全国から第44回総会に参加いただき、現執行部による最後の議案を審議いただくことになっております。

本日の議案は、社団法人名古屋工業会の方向を決める重要変曲点の一つと考えており、沢山のご意見をお聞かせいただきたいと存じます。

ここで本日審議される議案について少し述べてさせていただきます。

平成21年度の事業報告並びに収支決算書及び平成22年度の事業計画並びに収支予算書を審議決議頂くとともに、本年は特に重要議題として、役員任期満了に伴う新役員の選出、そして社団法人名古屋工業会の将来を決める公益法人制度改革対応の具体的な作業に入ることを承認いただくことであります。

皆様にはすでに御承知のように、現執行部の任期である平成20、21年度と2年間取り組んでまいりました最大のテーマが、新法人法に対応して我々名古屋工業会をどの様にするかであり、その中身の最重要部分が事業目的の再確認と組織改革であります。

機関紙“ごきそ”の年頭あいさつで考え方を述べましたが、今年度はそれを具体的に進める、すなわち新定款案の作成作業に入ることであります。

この議案の審議のため、ロードマップを記載した2頁の参考資料をお付けいたしました。

この中では当然長年討議してきました名古屋工業会の名称も決定する必要があります。

重要問題の一つ、組織問題を取り上げますと、単科会との連携のありかたがあります。この件では、名古屋工業会の全国地方支部は各支部の単科会が集まって運営されている現状の中で、本部はもっと連携を深くしなければならないとの認識のもと、本日の資料19頁及び30頁第7条にある様

に参事会の組織を変えました。しかしもっと考える必要があります。

さらには“ごきそ”5、6月号の見開きに掲載致しましたが、ごきそ技術士会が設立されます。運動部OB会、OB管弦楽団からも連携の話が出ております。海外同窓会の問題もあります。

このように新定款を作るに当たっての新たな問題が沢山出てきていることを申し上げました。

任期満了に伴う役員の選出であります。御承知のように母校も学長の任期満了に伴う選挙により高橋学長が選ばれ、新執行部で運営されます。

今まで大学と理解しあった多くの案件を継続して進めて行ける様、また次の改選期と新法人への移行期が重なることも考えた上で、役員候補者を提案しております。

2つの重要議案宜しく審議くださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、社会情勢が極めて不安定だけでなく、経済面でもギリシャに端を発したヨーロッパの経済不安、やっと少し良くなってきた日本の景気もユーロ、USドルに対する大きな円高、そして日本株の今年最低水準の一万円割れなど問題山積でありまだまだ続くと考えられます。

その中で大学運営の外部資金の導入は大変な努力が必要です。

政治面でも新しい民主党の政策等不明なところが多いですが、財政難の中運営費交付金は益々少なくなっていくと思います。

大学は高橋学長以下全学が一丸となって六十年間の中期計画を遂行されます。この結果は母校の存亡を左右します。

この努力に対し五万五千人にならんとする卒業生がどのように支援するか、これが定款を定めるに当たっての最も重要なポイントとなります。

会員の皆様の絶大なご支援をお願いし挨拶いたします。



会 長 挨 拶

名古屋工業大学 学長
名古屋工業会 会長
高橋 実

本年4月より4年間、名古屋工業大学の学長を務めます高橋でございます。

本日は総会の場をお借りして、本学の第2期中期目標・計画のポイントと工業会への要望をいくつか述べさせていただきます。

ご承知のように、国立大学は本年4月より第2期6年間の中期・目標計画の遂行に取り組むことになっています。本学は7つの重点目標を掲げ、合計81項目の教育、研究、業務・運営等の改革や改善の目標・計画を立てています。全容は本学のホームページに公開されていますので、時間がございましたらご覧頂ければと存じます。この中で、皆様方も特にご関心が高いかと思う目標は「高度専門職業人」の育成を明確に掲げていることです。人類社会の発展に貢献する工学を目指し、実践力を有する技術者を育成することは、官立高専として設立されて以来の本学のDNAであり、根幹に据えています。しかし、法人化は無論、大学を取り巻く現在の状況は、本学設立時は言うに及ばず数十年前と比べても大きく変わってきております。例えば、対象年齢人口の大学進学率は50%を越えています。「大学のユニバーサル化」というのはこの50%を越えてくると、教育内容・組織等も変わらざるを得ないという意味です。昨今叫ばれている学士力の保証はこのフレームの中で出されているものです。これとは別に、輸送・情報システムなどの革新的飛躍により、経済等の広域化と国際的な流動性・同時性が高まっています。大学においても研究だけでなく教育、換言すれば学生の流動化も起きています。端的に申せば、優秀な学生・研究者の国際的獲得競争と教育の国際通用性が問われており、「大学のグローバル化」と言われます。本学はこのような状況変化を睨みつつ、7つの主な目標の中で、「基盤産業の革新に貢献するリーダーと、新産業の創成に貢献するリーダーの育成を目指し、複線的な教育体系を実現する。」ならびに「教育・研究・技術協力分野の国際交流を活性化し、国際的視野を持った学生・教職員を育成する。」ことを謳っています。皆様方には、本学が今後進める諸改革を温かく見守って頂くことをお願いするとともに忌憚の無いご意見を賜ることが頂ければ幸いです。

さて、工業会には100周年募金活動を機に、大学支援を前面に押し出されご支援頂いていることには大変感

謝致しております。お陰さまで、昨年度より学業に優れた成果を示した学生への奨励金、今年度には入試成績が抜群の新入生への奨励金など基金の運用を始めることができました。しかし、現基金の利子だけでは十分な学生支援は困難であります。現役学生への様々な支援を強調しつつ、大学と工業会が連携し現役学生や未加入OBの会員化と会費増を進めたいと考えています。また、工業会を軸とした卒業生には資金的援助だけでなく、キャリア教育などでもご協力頂き、今年度の入学式の際にはNTN会長である鈴木泰信氏からのご講演を頂いており、厚く御礼申し上げます。なお、皆様が関わっている財団等の各種助成についても名工大学生・職員に対する配分枠の拡大を検討して頂ければ大変ありがたく存じます。

昨年、今年と全国の大学の就職戦線は苦戦を強いられる中、幸いにも本学は実質100%の就職率を維持しています。これも、本学OBの活躍に支えられた社会における本学の高いプレゼンスの賜物と実感しております。工業会には名工大の国内外におけるプレゼンス向上に向けた広報、具体的には入試と就職の広報に一層の助力をお願いしたいと存じます。

以上述べたことは第2期中期目標・計画でも「大学基金等を基に、優秀な学生を経済的に支援する制度を拡充する。」「海外拠点の構築と、本学が輩出した人材を軸に国内外ネットワークを拡充し、本学の特色ある優れた教育研究活動を世界に発信する。」「在学生・卒業生との連携を一層強化し、本学の教育研究への支援のための経費を拡充する。」などと記載しています。

最後になりますが、現在の心境を申せば、朝日のコラムで紹介されていた川柳の「母さんと呼ばれ続けて母になる」の母を「学長」と置き換えたような感じです。今後、大学の個性化と自立化の流れは更に加速します。将来的には、再編・統合など本学の枠を越えた厳しい局面に晒されることもあるかも知れませんが、最も重要な支援組織である名古屋工業会が名古屋工業大学とともに発展することを願い、私の挨拶とさせていただきます。



平成 21 年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

(1) 公益法人制度改革への対応

名古屋工業会の今後のあり方を検討するため、組織改革委員会及び運営委員会で移行する方向について検討を行ない、一般法人への移行を前提に準備を開始することとして理事会で承認を受け、総会に諮ることとした。今後も他大学の同窓会等の動向を注視しながら、平成 24 年度の申請を目指して作業を進める。

2. 大学支援事業

(1) 連携強化事業

- ①教育支援として、第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ②学生の就職支援の一環として、OB の企業トップによるセミナーおよび OB 講演会を開催した。

(2) 資金援助事業

① 教育・研究助成

- イ 名古屋工業大学教官に研究助成金を交付し、母校における教育研究の振興を図った。
- ロ 名古屋工業大学緑化基金に対する協力を行なった。
- ハ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ニ 理事長が名古屋工業大学経営協議会及び学長選考会議、基金運営委員会のメンバーとして、また常務理事が基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ホ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。

② 学生支援

イ 名古屋工業会賞の贈呈

平成 22 年 3 月 23 日举行的名古屋工業大学学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 22 名に対し、篠田理事長より工業会賞として表彰状並びに記念の時計を贈呈した。

(第一部)

生命物質工学科	志水亜也子	山本浩輔	佐藤友香
環境材料工学科	倉地宏和	中川翔太	
機械工学科	清田大樹	夏野匡哲	松原 賢
電気電子工学科	近藤琢哉	石崎亮多	犬塚博章
情報工学科	宮越喜浩	多田圭吾	末次克也
建築・デザイン工学科	小島崇徳	深谷晃輔	
都市社会工学科	長田直也	小林常晃	

(第二部)

物質工学科	村上貴則	電気情報工学科	吉田敦史
機械工学科	中田元晴	社会開発工学科	柴田 賢

ロ 奨学金給付

平成 21 年 11 月 17 日名古屋工業会館において名古屋工業会奨学金の授与式を行い、篠田理事長より激励の挨拶の後日本人 11 名、外国人留学生 4 名の計 15 名に奨学金を授与した。

ハ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。

ニ 課外活動奨励金を 6 団体に、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。

ホ フォーマュラプロジェクトへの支援を行った。

ヘ 平成 22 年 3 月卒業の正会員（終身会員）に祝意を表し、記念品を贈った。

ト 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。

(3) 教職員支援事業

イ 名古屋工業大学退職教職員に、第 43 回通常総会にて感謝状と記念品を贈呈した。

(定年退職教官 10 名)

伊藤基之	池田章一郎	齋藤勝裕	北 重公	平井洋武	田中浩一
隅山兼治	佐伯義隆	越谷仁哉	神藤 久		

(定年退職事務官 7 名)

船渡英明	疋田 博	貝谷邦夫	荒木律世	友齊壽和子	原 孝子
笠松芳子					

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動

イ OB 未入会者への勧誘

- 1) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
- 3) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 4) 本年度新規入会者

終身会員 49 名、 年度会員 31 名、 合計 80 名

ロ 新入学生への勧誘

- 1) 大学の入学手続き書類に「入会案内」を同封し、さらに手続き会場に出向き出前勧誘を行った。
- 2) 未加入の新入生の保護者宛に、再度入会案内を送付し入会勧誘を行った。
- 3) 生活協同組合とタイアップした新入生の全入化策について、関係者と協議中
- 4) 本年度新規入会者

終身会員 242 名、 学生会員 9 名、 合計 251 名

ハ 在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し入会勧誘を行った。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会について、入会勧誘を行った。
- 3) 本年度新規入会者

終身会員 6 名、 学生会員 19 名、 合計 25 名

ニ 名古屋工業会の魅力向上と会員のメリットを付加する目的で、「名古屋工業会カード」の創設の検討中。

ホ 平成 21 年度末、OB 会員入会率； 21.7%

対象者 54,468 名、会員 11,824 名(終身会員 8,378 名、年度会員 3,446 名)

(2) 活性化活動

① 会員交流および広報活動

イ 会誌「ごきそ」を隔月刊行し、会員並びに賛助会員に送付した。更に、3・4 月号は新入生に、5・6 月号は在校生の父兄に送付し、名古屋工業会の広報に資した。

ロ ホームページの内容を随時更新し、内容の充実と即時性を高めると共に、メールマガジンを適時配信した。更にホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図った。

ハ 工業会が保有する卒業生名簿の整備を行った。

② 支部活動

イ 全国各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。(支部総会等の実績を後掲)

ロ 支部長会議を開催し、全国各支部より支部長が出席して支部活動の現況と活性化等について検討した。

③ 単科会との連携

イ 工業会と単科会との関係および今後の単科会のあり方等について検討するため、単科会との懇談会を実施した。

ロ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④ 講演会の開催

イ 通常総会後に特別学術講演会を開催した。

日時：5 月 23 日（土）15：40～16：40

会場：中日パレス

講師：横山裕行 氏 トヨタ自動車(株)常務役員

演題：「お客様第一の真の実現を目指して」

⑤ 記念品の贈呈

イ 平成 20 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、第 43 回通常総会にて記念品を贈呈した。

伊藤 豪 (D41)	黄綬褒章	光岡 毅 (C35)	瑞宝小綬章
岡田睦也 (C34)	瑞宝小綬章	伊藤 剛 (M16)	旭日単光章
東島良治 (M35)	瑞宝双光章	加藤倫朗 (Y40)	藍綬褒章
青山哲也 (E23)	紺綬褒章		

ハ 卒業満 70,60,50 周年に該当の名古屋工業会会員に、第 43 回通常総会にて記念品を贈呈した。

70 年－昭和 14 年卒 29 名、60 年－昭和 24 年卒 40 名、50 年－昭和 34 年卒 99 名

平成21年度収支決算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日)

1.収入の部(一般会計)

(単位:円)

勘 定 科 目		決算額	予算額	増 減
大 科 目	小 科 目	(A)	(B)	(A)－(B)
財産運用収入		2,889,844	3,000,000	△ 110,156
	財産利子収入	2,889,844	3,000,000	△ 110,156
事業収入		5,583,303	4,724,000	859,303
	会誌広告料	460,000	750,000	△ 290,000
	オフィス賃貸特別会計より繰入	3,106,035	2,940,000	166,035
	駐車場賃貸特別会計より繰入	1,016,910	1,034,000	△ 17,090
	寄付金収入	1,000,358	0	1,000,358
入会金収入		263,000	300,000	△ 37,000
	学生会員	108,000	100,000	8,000
	正会員	155,000	200,000	△ 45,000
会費収入		42,781,000	43,386,000	△ 605,000
	年度会費収入(学)	159,000	100,000	59,000
	年度会費収入(正)	7,220,000	8,000,000	△ 780,000
	過年度会費収入	490,000	500,000	△ 10,000
	前受年度会費収入	220,000	250,000	△ 30,000
	終身会費収入	34,502,000	34,316,000	186,000
	賛助会費収入	190,000	220,000	△ 30,000
雑収入		55,500	30,000	25,500
	雑収入	55,500	30,000	25,500
積立預金取崩収入		9,190,479	10,300,000	△ 1,109,521
	調査研究助成積立預金取崩収入	4,600,000	5,600,000	△ 1,000,000
	将来計画準備預金取崩収入	2,200,000	2,200,000	0
	育英奨学積立預金取崩収入	1,500,000	1,500,000	0
	減価償却積立預金取崩収入	890,479	1,000,000	△ 109,521
前期繰越収支差額		1,411,102	1,411,102	0
	前期繰越収支差額	1,411,102	1,411,102	0
収 入 合 計		62,174,228	63,151,102	△ 976,874

注1

注2

注3

終身会費引当預金

項 目	金 額	備 考
平成21年度終身会費引当預金	172,288,604	平成6年度～平成20年度 終身会費前受金
平成21年度終身会費入金額	18,230,000	終身会員入会者数 297 名
平成21年度使用可能終身会費	34,502,000	終身会費使用ルールによる
平成22年度終身会費引当預金	156,016,604	平成7年度～平成21年度 終身会費前受金

注1、旧豊田工機(現ジェイテック)名工大OB有志一同よりの寄付金

注2、年会費の納付減

注3、寄付金収入分を取崩額から減

2.支出の部

(単位:円)

勘 定 科 目		決 算 額	予 算 額	増 減
大科目	小科目	(A)	(B)	(A) - (B)
事 業 費		38,957,217	39,942,000	△ 984,783
	(1) 連携強化事業 第二部教育支援等経費	1,391,876	1,200,000	191,876
	(2) 資金援助経費 教育研究助成経費	2,370,000	2,400,000	△ 30,000
	学生支援経費	3,299,258	3,350,000	△ 50,742
	教職員支援経費	131,586	150,000	△ 18,414
	(3) 会員増強活動経費	1,801,300	2,000,000	△ 198,700
	(4) 広報活動経費	10,011,104	10,040,000	△ 28,896
	(5) 支部活動経費	10,553,047	10,150,000	403,047
	(6) 講演会経費	57,782	80,000	△ 22,218
	(7) 会員慶弔経費	89,615	800,000	△ 710,385
	(8) 人件費	6,869,244	7,100,000	△ 230,756
	(9) 光熱水料費	595,898	640,000	△ 44,102
	(10) 事業諸経費	1,786,507	2,032,000	△ 245,493
管 理 費		16,526,628	17,702,000	△ 1,175,372
	(1) 制度改革等調査費経費	118,645	200,000	△ 81,355
	(2) 総会経費	1,973,388	2,650,000	△ 676,612
	(3) 人件費	6,869,245	7,100,000	△ 230,755
	(4) 光熱水料費	595,899	640,000	△ 44,101
	(5) 管理諸経費	1,786,508	2,032,000	△ 245,492
	(6) 租税公課	1,982,200	2,000,000	△ 17,800
	(7) 建物等維持管理費	3,200,743	3,080,000	120,743
固定資産取得支出		890,479	1,000,000	△ 109,521
	(1) 建物改装	819,000	800,000	19,000
	(2) 備品購入費	71,479	200,000	△ 128,521
積立預金繰入支出		5,096,585	4,450,000	646,585
	(1) 退職給与積立預金繰入支出	2,000,000	1,500,000	500,000
	(2) 減価償却積立預金繰入支出	2,965,085	2,800,000	165,085
	(3) 入会金積立預金繰入支出	131,500	150,000	△ 18,500
次期繰越収支差額		703,319	57,102	646,217
	(1) 次期繰越収支差額	703,319	57,102	646,217
支 出 合 計		62,174,228	63,151,102	△ 976,874

注1、支部総会出席者増等

注2、会員慶弔記念品の購入減

注3、出席者減等

正味財産増減計算の部

平成22年3月31日

(1)増加の部

(単位:円)

	勘 定 科 目	決 算 額	備 考
資 産 の 増 加	当 期 繰 越 収 支 差 額	703,319	
	建 物 増 加 額	189,000	
	建 物 附 属 設 備 増 加 額	630,000	
	什 器 備 品 増 加 額	71,479	
	減 価 償 却 積 立 預 金 増 加 額	2,965,085	
	入 会 積 立 預 金 増 加 額	131,500	
	退 職 給 与 引 当 預 金 増 加 額	2,000,000	
負 債 の 減 少	終 身 会 費 引 当 金 減 少 額	16,272,000	
増 加 額 合 計		22,962,383	

(2)減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	1,411,102	
	建物償却費	1,768,157	
	建物附属設備償却費	341,742	
	什器備品償却費	855,186	
	調査研究助成積立預金減少額	4,600,000	
	将来計画準備預金減少額	2,200,000	
	育英奨学積立預金減少額	1,500,000	
	減価償却積立預金減少額	890,479	
	終身会費引当預金減少額	16,272,000	
負債の増加	退職給与引当金増加額	2,000,000	
減少額合計		31,838,666	
当期正味財産増減額		△ 8,876,283	
前期繰越正味財産額		213,327,627	
期末正味財産合計額		204,451,344	

貸借対照表

1. 資産の部

平成22年3月31日

(単位:円)

勘定科目		金額	
大科目	小科目		
流動資産	現金預金	1,019,759	
流動資産合計(A)			1,019,759
固定資産 基本財産	土地	26,150,730	
	建物	37,625,753	
	建物附属設備	1,915,716	
	什器備品	3,089,095	
	減価償却積立預金	55,076,789	
	入会金積立預金	22,932,500	
基本財産合計(B)			146,790,583
その他固定資産	調査研究助成積立預金	50,076,415	
	育英奨学積立預金	4,500,000	
	将来計画準備預金	2,031,027	
	退職給与引当預金	3,650,000	
	終身会費引当預金	156,016,604	
	預入保証金	350,000	
その他の固定資産合計(C)			216,624,046
固定資産合計(D) = (B) + (C)			363,414,629
資産合計(E) = (A) + (D)			364,434,388

2. 負債の部

勘定科目		金額	
大科目	小科目		
流動負債		0	0
固定負債	貸貸契約保証金	316,440	
	退職給与引当金	3,650,000	
	終身会費引当金	156,016,604	
固定負債合計(G)			159,983,044
負債合計(H)			159,983,044

3. 正味財産の部

基本金		146,790,583
当期正味財産減少額		8,876,283
正味財産(I)		204,451,344
負債及び正味財産合計(J) = (H) + (I)		364,434,388

財 産 目 録

平成22年3月31日

(単位:円)

(資産の部)		
I. 流 動 資 産		1,019,759
1. 現金預金	1,019,759	
流 動 資 産 合 計	1,019,759	
II. 固 定 資 産		68,781,294
1. 有形固定資産		
(1) 土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2) 建物 会館鉄筋4階建延665.09 m ²	37,625,753	
(3) 建物附属設備	1,915,716	
(4) 什器備品	3,089,095	
有 形 固 定 資 産 合 計	68,781,294	
2. その他の固定資産		294,633,335
(1) 普通預金(三菱東京UFJ銀行)	4,253,804	
(2) 定期預金(三菱東京UFJ銀行)	1,000,000	
(3) 当座預金(ゆうちょ銀行)	9,810,715	
(4) 金銭信託(みずほ信託銀行他)	11,218,816	
(5) 国 債 (大和証券他)	54,000,000	
(6) 公社債 (野村証券他)	214,000,000	
(7) 保証金 (八重洲倶楽部、セコム)	350,000	
その他の固定資産合計	294,633,335	
資 産 合 計		364,434,388

監 査 報 告 書

平成22年4月8日

社団法人 名古屋工業会

理事長 篠 田 陽 史 殿

監 事

監 事

清水益文 

監 事

伊藤要蔵 

社団法人名古屋工業会平成21年度事業報告並びに会計収支決算を詳細に
監査したところ、諸帳簿・諸証票書類とも正確にて適正であると認めました。

以上を報告致します。

平成 22 年度事業計画

3 年後に迫った特例民法法人の移行期限に備え、全学同窓会としてのあり方を根本的に見直しながら、新法人の定款作成準備に着手する必要がある。

このため、会員相互交流や情報交換といった従来からの事業の維持に加えて、新たに開始された大学との連携強化事業の定着を図り、一層の大学支援事業を充実するとともに、名工大卒業生による各種団体（単科会、海外同窓会、技術士会、部・同好会・サークル活動OB会など）との連帯についても、その方策を探りつつ、新制度対応に反映していく。

1. 組織改革に向けた活動

(1) 公益法人制度改革への対応

一般社団法人への移行を想定した定款作成のため、組織改革委員会を中心にして大学と連絡を取りながら全学同窓会としての事業目的・内容・組織体制・役員構成等を総合的に検討する。

(2) 財政基盤の充実

新組織体制下での継続的な寄付金受け皿の整備ならびに卒業生の周年寄付金制度などと共に、新入学生の全員入会を目指した活動を精力的に推進し、財政基盤の充実を図る

2. 大学支援事業

(1) 連携強化事業

- イ 第二部教職科目（職業指導）への実務型教員（非常勤講師）派遣継続を行なうと共に、第一部の授業への拡大についても検討する
- ロ 就職ガイダンスの一環としての就職活動対象学生に対する OB によるセミナーや、在学生及び教職員を対象とした OB の企業トップによる講演会を開催する
- ハ 上記支援策の基礎となる人材データベースの構築のため、卒業生名簿の整備について大学と共に検討する

(2) 資金援助事業

①教育・研究助成

- イ 名古屋工業大学教官に対する研究助成
- ロ 名古屋工業大学の教育に対する支援
- ハ 名古屋工業大学が行なう各種事業への支援

②学生支援

- イ 名古屋工業大学学位記授与式に際し、優秀な卒業生に「名古屋工業会賞」を贈呈
- ロ 名古屋工業大学学生への奨学金給付
- ハ 名古屋工業大学留学生後援会の援助
- ニ 課外活動奨励金の給付
- ホ「工大祭」の支援
- ヘ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援

(3) 教職員支援事業

- イ 名古屋工業大学定年退職教職員への感謝状と記念品贈呈

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動

- イ 大学及び大学生生活協同組合の協力の下で、新入生全員入会を目指した入会勧誘と、在学生の入会勧誘
- ロ 卒業生の未入会者を対象とした各種会合を通じての入会勧誘
- ハ 各支部開催行事の機会における支部単位での積極的な入会勧誘
- ニ 在校生に対し、名古屋工業会の認知度を高めるとともに、卒業時における学生会員から終身会員または正会員への変更の推進
- ホ 単科会が主催する卒業生と学生の懇談会における未加入者の入会勧誘
- ヘ 単科会会員のうち、名古屋工業会未加入者に対する積極的な入会勧誘
- ト 名古屋工業会の魅力向上と会員のメリットを付加する目的で、「名古屋工業会カード」の創設及び生涯メールアドレス付与の検討

(2) 活性化活動

①会員交流および広報活動

- イ 会誌「ごきそ」を隔月に刊行し、会員に対する大学情報の提供と会員間交流情報の媒体として、より魅力ある会誌の刊行
- ロ ホームページの内容を充実し、利便性を高める。さらにホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図ると共に、メールマガジンを適時配信する

②支部活動

イ 会員の人的ネットワーク形成のため、各支部毎の事業充実を図り、会員のコミュニケーションを活性化

③単科会との連携

イ 工業会と単科会との関係および今後の単科会のあり方等について検討するため、単科会との懇談会を実施

ロ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を共催

ハ 卒業生名簿の共有化について検討する

④講演会の開催

イ 通常総会後に特別学術講演会を開催

⑤記念品の贈呈

イ 平成 21 年度の叙位叙勲者および国家褒章受賞者に記念品贈呈

ロ 卒業満 70、60、50 周年に該当する会員に記念品贈呈

以 上

平成 22 年度収支予算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日)

1. 収入の部 (一般会計)

(単位：千円)

勘 定 科 目		予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A - B)
大 科 目	小 科 目			
財産運用収入		2,500	3,000	△ 500
	財産利子収入	2,500	3,000	△ 500
事業収入		4,620	4,724	△ 104
	会誌広告料	600	750	△ 150
	オフィス賃貸特別会計より繰入	3,000	2,940	60
	駐車場賃貸特別会計より繰入	1,020	1,034	△ 14
入会金収入		300	300	0
	学生会員	100	100	0
	正会員	200	200	0
会費収入		42,945	43,386	△ 441
	年度会費収入 (学)	100	100	
	年度会費収入 (正)	8,000	8,000	0
	過年度会費収入	500	500	0
	前受年度会費収入	250	250	0
	終身会費収入	33,905	34,316	△ 411
	賛助会費収入	190	220	△ 30
雑収入		50	30	20
	雑収入	50	30	20
積立預金取崩収入		11,382	10,300	1,082
	調査研究助成積立預金取崩収入	6,851	5,600	1,251 注1
	将来計画準備預金取崩収入	2,031	2,200	△ 169
	育英奨学積立預金取崩収入	1,500	1,500	0
	減価償却積立預金取崩収入	1,000	1,000	0
前期繰越収支差額		703	1,411	△ 708
	前期繰越収支差額	703	1,411	△ 708
収 入 合 計		62,500	63,151	△ 651

※ 平成22年度借入限度額及び債務負担額について該当事項はありません

注1、収支差分

2.支出の部

(単位:千円)

勘 定 科 目		予算額	前年度予算額	増 減
大科目	小科目	(A)	(B)	(A) - (B)
事業費		41,610	41,482	128
	(1) 連携強化事業			
	第二部教育支援等経費	1,400	1,200	200
	(2) 資金援助経費			
	教育研究助成経費	2,370	2,400	△ 30
	学生支援経費	3,300	3,350	△ 50
	教職員支援経費	150	150	0
	(3) 会員増強活動経費	1,800	2,000	△ 200
	(4) 広報活動経費	10,040	10,040	0
	(5) 支部活動経費	10,150	10,150	0
	(6) 講演会経費	60	80	△ 20
	(7) 会員慶弔経費	550	800	△ 250
	(8) 人件費	7,750	7,100	650
	(9) 光熱水料費	640	640	0
	(10) 事業諸経費	3,400	3,572	△ 172
管理費		16,090	16,162	△ 72
	(1) 制度改革調査費等経費	200	200	0
	(2) 総会経費	2,100	2,650	△ 550
	(3) 人件費	7,750	7,100	650
	(4) 光熱水料費	640	640	0
	(5) 管理諸経費	3,400	3,572	△ 172
	(6) 租税公課	2,000	2,000	0
固定資産取得支出		1,000	1,000	0
	(1) 建物改装	900	800	100
	(2) 備品購入費	100	200	△ 100
積立預金繰入支出		3,800	4,450	△ 650
	(1) 退職給与積立預金繰入支出	1,000	1,500	△ 500
	(2) 減価償却積立預金繰入支出	2,650	2,800	△ 150
	(3) 入会金積立預金繰入支出	150	150	0
次期繰越収支差額		0	57	△ 57
	(1) 次期繰越収支差額	0	57	△ 57
支 出 合 計		62,500	63,151	△ 651

平成22年度 役員名簿

理事(25)

篠田 陽史 M33	○ 水谷 尚美 D42
張田 吉昭 M43	木越 正司 C44
二村 幸夫 K39	北村 正 Es48
○ 西野 洋一 K53	○ 樋口 真弘 W61
○ 服部 桂 M41	道家 清正 Y30
森川 民雄 W45	○ 緑 静男 D42
生嶋 一丈 K39	三井 富雄 A39
○ 葛島 隆二 C49	川村 信之 E53
○ 阿部 完二 D41	○ 三好 修 A40
坂井 利充 C42	○ 藤原 康宏 E36
○ 三木 敏裕 E48	○ 近藤 隆彦 B52
島ノ上正憲 M29	玉田 欽也 W32
楠田 修三 A50	

監事(2)

清水 益文 F44 伊藤 要蔵 B42

参事(23)

学内		学外	
単科会参事 C	藤田 素弘 C60	○ 安藤 裕康 C48	
A	麓 和善 A54	水谷 友彦 A42	
M	中村 隆 M50	○ 大西 一 M49	
E	○ 菊間 信良 Es57	安藤 幹人 E57	
W	○ 高木 幸治 W⑤	○ 泉地 正章 W44	
D	森 秀樹 D52	○ 伊藤 豪 D41	
Y	○ 本田 沢雄 ZY⑥	○ 山田 哲正 Y47	
K	○ 小坂井孝生 K49	○ 野々山秀夫 K45	
F	種村 眞幸 F56	小鍛治 正 F46	
B	仁科 健 B50	○ 加藤 英明 B48	

支部長(20)

北海道	三田村好矩 F41
東北	栗村 滋雄 C29
東京	○ 張田 吉昭 M43
甲信越	茅野 正澄 K55
静岡	山之上 誠 C49
三河	○ 近藤 隆彦 B52
名古屋	○ 水谷 尚美 D42
尾張	玉田 欽也 W32
岐阜	島ノ上正憲 M29
北陸	山岸憲一郎 K33
三重	○ 松林 万行 D48
大阪	○ 木越 正司 C44
兵庫	楠田 修三 A50
岡山	宮崎 勝秀 A45
広島	菱川 躬行 E34
山陰	糸賀 輝穂 C51
香川	○ 細谷 芳照 C53
徳島	後藤田啓造 M38
高知	山崎 健司 A54
九州	喜多村治雄 M40

評議員

北海道(1)	田上 利明 C47	
東北(3)	斎藤 文伸 A51	○ 島本 英明 C48
	中村 善吉 K35	
東京(16)	原田 龍次 C45	○ 松田 和繁 C53
	小松 信春 A49	北野 良幸 M46
	松浦 明人 M47	加藤 勝英 E39
	平手 孝士 Es42	○ 下前 哲夫 E39
	岡本 利郎 D44	三山 雅敏 D38
	倉島 俊二 W38	日沖 昭 Y40
	須賀 久明 K43	嶋 昇平 F47
	○ 阪井 眞人 K46	濱野 勝弘 B42

甲信越(3)	○ 三浦 市郎 C56	塚平 正廣 ㊞23
	樋口 順 C48	
静岡(2)	藤井義磨郎 Es49	榊原 学 F48
三河(7)	中島 和彦 Y58	吉木 満 W56
	藤田 聡 D60	○ 佐藤 章雄 F52
	西 保幸 M51	○ 山田 雄一 M⑫
	山本 有彦 F63	

名古屋(28)	○ 川崎 昭弘 C52	○ 兼岩 孝 C54
	○ 脇本 英夫 C57	内藤 克己 A43
	荒金 謙一 A45	辻 俊博 M46
	○ 富田 康公 M①	伊藤 克彦 M57
	江川 孝志 Es55	菊間 信良 Es57
	杉本 昌稔 E50	岩波 保則 E51
	重野 拓郎 E62	長谷川隆男 W38
	○ 杉本 英樹 W⑥	○ 大橋 聖一 D45
	村瀬 由明 D53	○ 牛田 邦裕 Y51
	○ 多賀 茂 Y62	○ 江崎 正啓 K47
	林 昭二 K46	○ 守田 賢一 F47
	市川 洋 F56	小澤 幸男 B43
	驚見 克典 B63	松尾 啓志 J58
	○ 石橋 豊 J56	小鹿 良雄 ㊞23
	○ 中村 啓之 A41	○ 立石 吉行 M44
	服部 重夫 Y43	

尾張(3)	堤 喜治 M45	亀山義比古 A43
岐阜(3)	篠田 洋 D36	
北陸(3)	馬場 清和 M44	森 悦次 K46
	吉岡正盛 B58	

三重(3)	○ 和田 一人 D57	永田 朝光 E47
	北川 貴志 C50	
大阪(12)	坂尾 健司 F55	○ 末利 鏡意 D41
	○ 土田 公司 M44	片岡 宏治 Y40
	布施順之助 B42	○ 玉水 新吾 A51
	○ 原尾 則行 E47	西川 宣昭 W40
	山本 泰三 M39	○ 奥村 茂樹 W48
	田中 耕嗣 G52	小西日出幸 C55
	前田多津夫 A38	○ 香取 英明 F58

兵庫(3)	○ 上村 芳夫 M55	
	虫明 正博 K59	中村浩巳 A54
岡山(2)	○ 菱川 躬行 E34	
広島(1)	○ 土肥 美実 C57	森下 博 C56
山陰(2)	○ 浅野 啓三 F60	
香川(1)	○ 中井 弘明 M43	
徳島(1)	山内 健 C53	
高知(1)	今村 賢三 A38	喜多村治雄 M40
九州(3)	安達 高春 A46	

相談役(7)	井上丈太郎 E13	森 眞佐雄 ㊞20
	伊藤 正延 D30	金原 淑郎 M25
	藤原 俊朗 K31	市川日出男 D32
	牛込 進 Y33	

参与(15)	馬場 富雄 A29	日比 貞雄 W35
	早原 悦朗 E37	佐藤 太英 E32
	大橋 照男 K36	浅井 利夫 E31
	友松 英爾 D30	横田 章宏 D33
	宇佐美貞夫 F40	秋山 敏郎 C33
	北村 健治 B40	石川 金治 C33
	○ 小田征一郎 E36	○ 河辺 彰 K40
	○ 加藤 作次 C40	

顧問(4)	河本 毅一 C32	戸蒔 吉孝 F39
	○ 飯田 秀郎 W33	○ 星野 三郎 M35

○:新役員

公益法人制度改革への対応について

平成 20 年 12 月 1 日に施行された一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき、当会は平成 25 年 11 月 30 日までに新組織に移行するための手続を行なう必要がある。

このため、組織改革委員会を設置し移行先の方角について検討を行ない、運営委員会で了解を得て平成 21 年 10 月 24 日開催の理事会において、一般社団法人へ移行するための準備を開始することの承認を得た。また移行認可申請は平成 24 年度を予定し、それまでの間は他大学の同窓会等の動向を注視しながら作業を進めることとする。

◎移行先の選択肢

(1) 公益法人への移行

不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする法人で、公益法人認定法に基づき公益認定委員会の認定を受ける必要がある。受益の機会が特定多数のものに限定される場合は共益とされ、同窓会組織の公益認定は難しい。

(2) 一般法人への移行

実施事業の制限がなくなり税制面の優遇が一部を除き普通法人と同等の課税となる。定款及び公益目的支出計画書を作成し、その計画に基づき公益事業に対する支出を行なう。

(3) 任意団体への移行

現行法人の解散手続を取り、残余財産を名古屋工業大学へ寄付し、新たな同窓会組織を設置する。

支部に関する規程の一部改訂

(改定部分を下線で示す)

- 第11条** 各支部の経費は当該所属会員の負担とする。但し、各支部より当事業年度開始後3ヶ月以内に前年度事業報告書及び当年度事業計画書の提出が行われた場合には本部より各支部に補助金を交付する。
2. 補助金は、正会員が前年度に納めた年会費の2割及び終身会員の数に前記と同額を乗じた額を次の要領で配分する。
 3. 補助金は、基本分と人数分を以下の方法により積算した額に調整分を加えて積算する。
 4. 基本分は、各支部に一律 5 万円を支給する。ただし、活動実績のない支部は除く。
 5. 人数分は、支部交付金の総額から基本分を除いた残額を会員数により配分する。ただし、職域分は単価を 500 円とする。
 6. 調整分は、各支部の配分額が前年度より下回った場合(会員数の減少による場合を除く)は、減額分を補填する。これに必要な財源は、会員数が千人を超える支部から会員数に応じた比率で減額する。
 7. 各支部の総会に出席した人のうち、前年度会費納入済の会員(終身会員含む)の出席者一人あたり年度分の会費の2割に相当する金額を協賛金として当該支部に交付する。
 8. 補助金の配分要領は、3 年ごとに見直すものとする。

- 附則
- 1 この規程は、平成 18 年 5 月 27 日から施行する。
 - 2 この規程は、平成 22 年 4 月 24 日から施行する。



TOKUBETSU KOUEN

特別講演

メディアから見た日本の社会保障

東京新聞・中日新聞論説委員 日比野守男（B48 院B50）

日比野です。今日はこのような席にお招き頂きましてありがとうございます。

私は名工大を出て、中日新聞社に入って最初の6年間は三重県にいました。初めは警察回りなど事件・事故ばかり担当していましたし、東京へ行っても警視庁などを回っていました。途中からは科学系の取材もしましたが、その後、どういう訳か社会保障の方に足を突っ込んで、今では書く原稿の2/3が社会保障、1/3が宇宙開発や原子力など科学に関するものです。

メディアで社会保障は非常に大きく扱われるようになりましたが、かつてはそれほど大きなウエイトを占めておりませんでした。例えば私が厚生省を最初に担当した当時、社内で希望者が全くいなくて、それでは私にやらせて下さいと言ったのですが、当時の社会部長に「君、珍しいね」と言われたぐらいです。ところが今はどの社でも社会保障には非常に力を入れており、読売新聞が社会保障部という単独の部を設けるほどです。

読売新聞は「事件の読売」と言われたくらいで、事件に関しては社内でも“抜いた”“抜かれた”の特ダネ競争が激しく、信賞必罰の厳しい会社でした。その読売新聞が社会保障部を作るというのは私らにすると非常に画期的な事で、それほどメディアの中で社会保障の占める割合が高くなっていることを示していると思います。

読売新聞はかつて、針小棒大な、いわゆる「飛ばし記事」が多かったのですが、今では社会保障も含めて非常に正確です。朝日新聞の部数を抜いて1,000万部を超えてからの記事は正確ですし、慎重になっています。昔に比べて隔世の感があります。

話が逸れてしまいましたが、今の世の中に

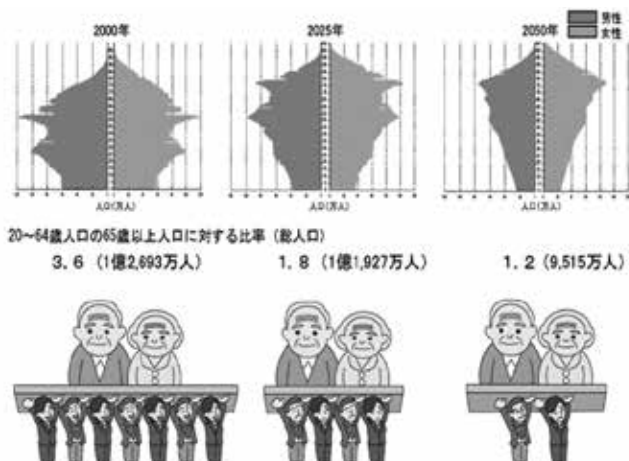


において社会保障は大きな関心事であり、選挙の争点にもなっております。ところが社会保障についてなんとなく分かるのですが、本当のところは伝わっていないのではないかと思います。メディアで取材していてどんな風に見えるかをこれからお話ししたいと思います。また社会保障は大事なのですが、これからも維持できるかどうかについてもお話しします。

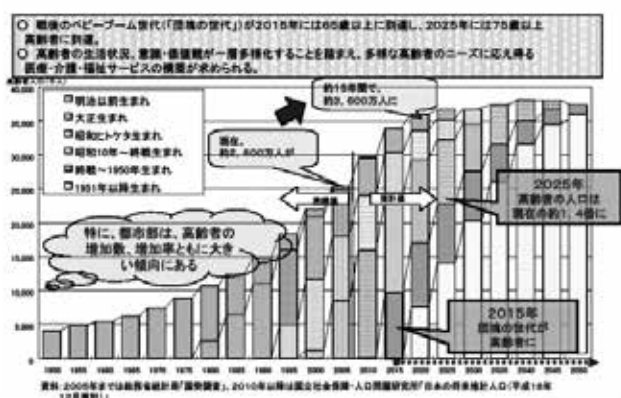
社会保障の仕組みの特徴は簡単にいいますと、若い人が高齢者を支えるということで、それが基本中の基本です。これが同じ保険でも民間の保険と違う点です。当然若い人が多ければ多いほど良いし、高齢者が少なければ少ないほど支える方が楽になります。

戦前は高齢者が少なく若い人が多かったのですが、1950年ごろになると人口ピラミッドが少し歪み始めます。それでもまだピラミッドという三角形になっていましたが、1960年代で崩れ始めて1990年代になると台形になり、2010年現在ではとても三角形とはいえず、団塊の世代といわれる我々の世代が膨れ上がって若い人が少なくなっています。近い将来には逆三角形になってしまうでしょう。これが今の社会保障を支えている人口構成の変遷です。

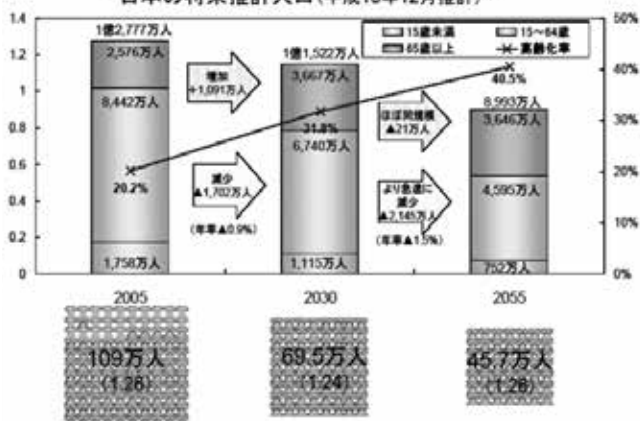
これを別の見方で申しますと、戦後世代の高齢者（65歳以上）の数が急速に増えて、あるところで頭打ちになります。ところが、日本の総人口は既に減り始めていますから、相対的に高齢者の割合が増えてきますし、2015年から団塊の世代が高齢者に入ってくるので割合がさらに増えます。子供（14歳未満）は今後も減り、高



戦後世代の高齢者の増加と高齢者像の変化



今後の急速な少子・高齢化の進行
～日本の将来推計人口（平成18年12月推計）～



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」（出生中位、死亡中位の場合）

齢者を支えなければならない15歳～64歳も減り始めます。

高齢化率というのは人口に占める65歳以上の方の割合をいい、2005年で5人に1人が高齢者です。これが2030年では3人に1人、2055年には2.5人に1人になりますが、子供の数は反対に減り続けます。直近のデータでは男女合わせて65歳以上の方はすでに22.7%で5人に1人以上になり、特に女性は4人に1人以上が65歳以上です。

普通、人口に対して65歳以上が占める割合が7～14%だと高齢化社会といわれます。14%を超えると高齢社会といい、21%を超えると超高齢社会といいます。日本は既に超高齢社会に入っているということです。子供は昭和25年の3,000万人に比べて今では1,600～1,700万人と昭和57年から29年連続で減っています。総人口は2006年の1億2,776万人をピークにどんどん減っています。高齢化率は2010年に23.1%ですが2055年には40.5%まで上がります。

高齢者数自体は2042年の3,863万人をピークに減っていきますが、人口も減っていくので、その後も高齢化率は高い状態が続きます。

先ほど申しましたように、社会保障というのは若い人が高齢者を支える仕組みになっています。2000年の時には3.6人で1人を支えていたのですが、2025年だと2人で1人、2050年には1人で1人を支えるようになります。これは人口学的にもはっきりしていますので、これに応じた社会保障を考えなければなりません。

よく厚労省は社会保障について「世代間の連帯」とか「世代間の仕送り」「世代間の扶養」だといい、できるだけ世代間対立を煽らないようにしていますが、若い人からみますと連帯、仕送り、扶養は押しつけだと映ります。私もこれらの言葉が好きではなく「世代間の負担の分かち合い」とか「負担の分担」といった言葉の方が適切だと思っています。

2010年度の政府の一般会計予算では全体の歳出が92兆円ですが、政策に使える一般歳出は53兆円しかありません。ところがこの一般歳出の中で、社会保障関係費は27兆円と半分を超えて

います。しばしば社会保障のために公共事業を減らせとか、防衛費を削れとかいわれますが、公共事業は既に5兆7,000億円で防衛費は5兆円を切っています。文教つまり科学技術関係の予算も5兆円台で、3つ合わせても社会保障関係費にはおよびません。それほど社会保障費というのはお金がかかるのが現状です。

ではどこからお金が入ってくるかというと、歳入の中で国債が今年は租税を抜いており、半分以上が借金です。国債を含めた国、地方の長期債務は合わせて900兆円近くに膨れあがっており、このままで良いのだろうか問題になっています。税収もこれから伸びるか疑問ですが、これが日本における財政の現状です。

社会保障の給付費が圧倒的に多いのは公的年金で、次いで医療、介護、福祉です。福祉とは例えば生活保護や障害、児童手当などです。給付はどこから賄われているかといえば、保険料と税です。社会保障給付費はどう変化しているかといえば、当然の事ながら60年代の頃から急激に増えています。医療費も高齢者が増えるに連れて増えており、現在、1人に年間70万円が給付されています。この傾向はまだまだ続きます。

政府の社会保障国民会議のこの試算について民主党は色々批判するが、反論していませんし、誰が計算してもこうなる事は認めざるを得ません。財務省のデータでみても一般歳出に占める社会保障関係費の割合はどんどん増えており、社会保障の負担が重くなっているのは間違いあ

りません。

ところが海外から見ますと少し違ってきます。日本は高齢化率が高いのですが、その割に社会保障の規模はそれほど大きくありません。国民所得に占める割合ではドイツやフランス、スウェーデンの方が高く、日本の方が社会保障の規模が相対的に小さいのです。日本は他の国より高齢化率が高いのですが、国民所得に占める社会保障関係費の割合は低いのです。

日本の国民負担率（租税と社会保障の国民所得に占める割合）は世界の中では低い方といってもよく、27%ですが、その上に乗っているのがあります。それが財政赤字です。ですから欧州と比べて相対的に低いといっても、このまま増えていってもいいのかという問題もあります。

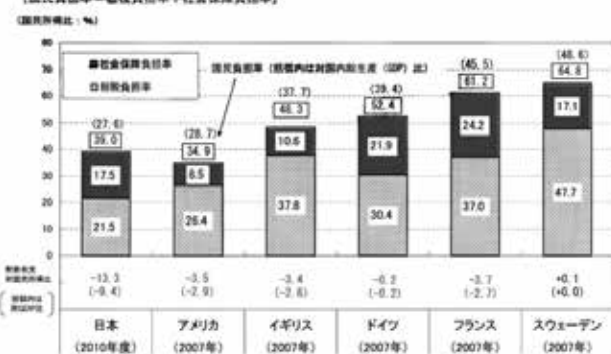
日本の社会保障の中で高齢者の給付、つまり年金・医療・介護と、児童や家庭関係への給付を比べますと、高齢者関係費はずーと伸びていますが、児童や家庭関係費はほとんど伸びていません。本当はこちらも増やさなければいけないのですが、なぜ伸びないのか。

個人的な意見ですが、高齢者は選挙権を持っていますが子供は選挙権を持っていません。では政治家はどちらにお金を付けるかといえばハッキリしていますので高齢者関係費がどんどん膨れ上がっていきます。反対に他の国に比べて保育や出産、育児休業補償、家族手当といったものが非常に低いままに置かれています。

民主党が2010年6月から始める子供手当の月

国民負担率の国際比較

【国民負担率＝租税負担率＋社会保障負担率】

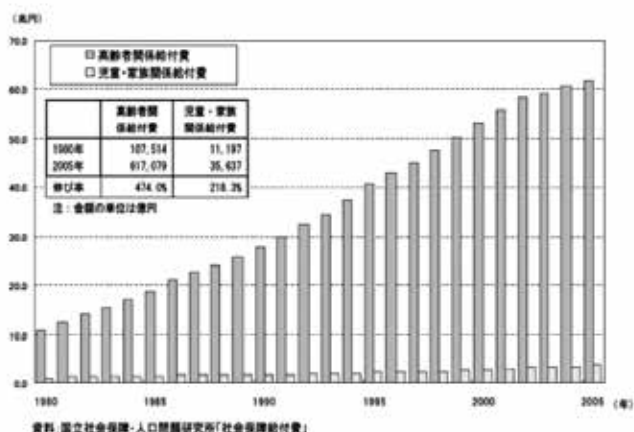


(注) 1. 日本は2010年度（平成22年度）実績。他国は2007年実績。

2. 財政収支の対国民所得比は、日本及びアメリカについては一般政府から社会保障基金を除いたベース。その他の国は一般政府ベースである。

【資料】OECD「National Accounts」(2002)、「Revenue Statistics」(2002)等

高齢者関係給付費と児童・家族関係給付費の推移



13,000円には莫大な財源が必要ですが、あなたが民主党の政策は荒唐無稽とはいえません。今まで子供にお金を使わなさ過ぎたのですから。

とはいえ、財政赤字が膨らむ中であれだけの大盤振る舞いをしていいのか、制度設計が甘いのではないかという批判をされるのは当然です。日本では給付に所得制限を設けていません。

北欧では所得制限はありませんが、25%の消費税を取って社会保障に力を入れています。生まれてから働き始め、いずれ高齢になり亡くなるまでに、どこかのステージで社会保障の恩恵を受けるという意識があるので所得制限を設けない理屈が受け入れられています。日本の場合は子供手当だけが所得制限がなくていいのかという点が問題になっています。

75歳以上の高齢者における一人あたりの医療費は、65歳未満に比べて5.6倍かかっています。高齢になるほど医療費がかかるのは当たり前で、それ自体は責められることはありませんが、事実として世代間で差があります。

エンジニアリングの世界では技術革新が起きるとコストが下がりますが、医療の技術革新は医療費を押し上げてしまいます。これが他の技術革新との大きな違いです。例えばX線で済むのにCTを使ったり、MRIやPETを使えば医療費はどんどん高くなります。X線では数千円なのにPETだと数万円という具合です。患者も高度な医療を求めますので、病院も対応せざるを得ません。

ですから高齢化だけが医療費を押し上げるわけではありません。かつて財務省は高齢化率の伸びの範囲に医療費の伸び率を抑制する方針を打ち出しましたが、それは間違いです。医療費を上げているのは高齢化率だけではありません。医療技術の進歩も医療費を上げる一因だからです。

日本の医療保険制度において、大きな問題の一つは、市町村国民健康保険（市町村国保）に低所得の高齢者が集中していることです。国保の保険料は一般的には所得に比べて高いので低所得者だと払えない、その結果、受診できないという問題が起きています。事実上の無保険だ

とか、それに近い方が国保には非常に多くいます。

他方、高齢になれば医療費が多くかかるのは当然としても、それを野放しにしているのかという問題もあります。若い世代と高齢世代の医療費の負担をどう分担するかということです。この問題について1990年後半から約10年間議論した結果、一昨年スタートしたのが後期高齢者医療制度です。

後期高齢者医療制度に対しては色々と批判がありました。「姥捨て山」だとか「年令による差別」だとか言われましたが、アンケートでは現在高齢者の過半数以上が基本的に今の制度でいいと答え、かなり受け入れられています。民主党など当時の野党は制度を以前の「老人保健制度」に戻すという法案を2008年6月、参院で可決しましたが、政権奪取後の民主党は一転して「メリット、デメリットを十分検討する」と大幅に後退しています。

民主党は、後期高齢者医療制度と年金記録不備問題を追及することで自公政権をひっくり返したわけですから非常にこだわりがあります。後期高齢者医療制度改革会議が厚労相の元に発足して、この夏に中間報告を出して来年、新制度発足のための法案を提出しスタートさせるとしています。

現在4種類の改革案がでていますが、一長一短です。例えば医療保険制度を全て解散して一つにまとめるという案がありますが、サラリーマンと自営業者の所得捕捉の違いをどうするかという問題が起き、今のままでは当然サラリーマンは納得しません。この問題を突き詰めると、納税者番号制を導入しない限り解決できませんが、この議論がほとんど行われていません。

また、改革案のほとんどは税の投入の増額を求めています。これは言うのは簡単ですが、財源をどうするのが明確にされていませんし、民主党も7月の参院選挙が終わるまで言わないでしょう。

社会保障給付費の最大の焦点である年金には2つの大きな問題があります。1つは記録問題で、いわゆる「消えた年金」や「宙に浮いた年

金」問題です。ずさんな年金記録管理をしていた社会保険庁が解体され、2010年1月から日本年金機構が発足しました。この年金記録問題でデタラメに管理されていたのは厚生年金と国民年金の記録です。社会保険庁職員が加入している公務員共済の記録は完璧に保存されていたのに、他人のお金になると極めてずさんだったということです。社会保険庁では厚生年金と国民年金の保険料を中抜きして娯楽施設をつくったり、ひどいケースでは長官の同窓会の会費にまで流用していました。ですから社会保険庁が解体されたのは当然の事であります。

2つ目は運用の問題です。公的な年金制度をこれからどうしたらいいのかという制度設計の問題です。民主党が言っているのは基礎年金（国民年金）と厚生年金のうち、基礎年金を税方式としたうえで、65歳以上の全員に月7万円を支給するというものです。公的年金は高齢者世帯の中で7割がメインの収入となっています。だから公的年金の制度をきちっとするのは当然の事です。

では何故、年金制度の改革問題が起きたか。国民年金の保険料は現在月額約15,100円でこれからも少しずつ上がっていきます。保険料は性別、年齢、所得に関係なく一律です。国民年金はもともと自営業者を対象にしていたので、所得捕捉が完璧にできなかったからです。

保険料が毎年上がる結果として未加入や未納者が増え、免除者も合わせると合計で対象者の4割近くに達します。すでに多くの無年金や低年金者が発生しており、65歳以上では人口の2%になります。この人たちは将来に生活保護にいかざるを得ません。

基礎年金の改革は当然しなければなりませんが、ここでも財源を何処からもってくるかという問題が起きます。現在支払われている基礎年金の給付額のうち、以前は1/3に税金が投入されていましたが、2009年度から投入割合が1/2に引き上げられました。

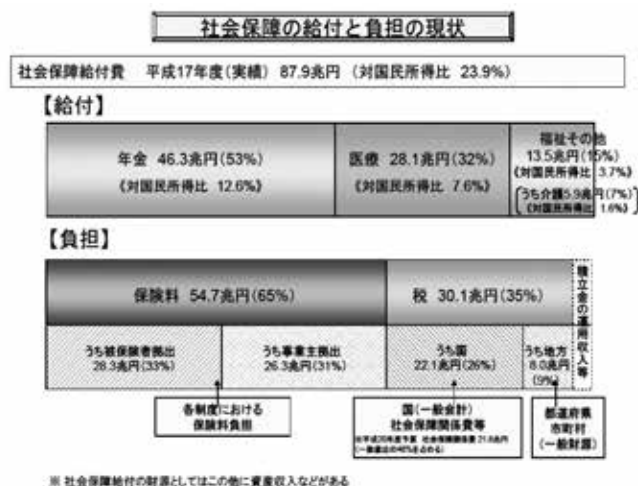
それだけで年に2.5兆円必要になります。2009年と2010年は埋蔵金を充てましたが、2011年度以降、どうするかが決まっています。消費税

で賄うという意見もありますが、消費税は現在5%で12兆円なのに対して、基礎年金の給付額は年間19兆円もあり、大きなズレがあります。

意外と知られていないのは消費税の仕組みです。5%の全てが国の取り分ということではありません。1%は地方の取り分で国の取り分は4%です。その4%のうち一定の割合が地方交付税となるので、実際には3%強しか国の手元には残りません。1990年から基礎年金とか老人医療や介護保険に全部つぎ込まれていますので、民主党が言うように、消費税をすべて充てるといった場合、地方分はどこから持ってくるかという別の問題が新たに生じますが、民主党はこれには全く答えていません。というよりも答えられないでしょう。

介護保険は2000年にスタートしましたが、社会保障制度の中でこれほど歓迎されたものはありません。要介護認定者はスタート時には210万人でしたが、2009年には2倍以上、介護にかかる総費用も2倍以上になりました。65歳以上の月平均保険料は2000～2002年度2,911円から2009～2011年度4,160円に増えています。これからさらに認知症や一人暮らしの高齢者が増加しますが、保険料をこれ以上、上げられるのかという問題があります。

介護保険は健康保険と違って非扶養者という概念がありません。高齢の夫婦ですとそれぞれが保険料を払わなければなりませんが、今後も払い続けられるかどうかということです。介護保険の財源は、半分が税で残りを65歳以上と40



歳～64歳の保険料で賄う仕組みですので、高齢者が増え介護の需要が増えるにつれ65歳以上も40歳～64歳も保険料が上がります。これは後期高齢者医療制度とよく似ています。

保険料をこれ以上あげられないので税負担を増やすとした場合、財源はどこからという問題がでてきます。社会保障国民会議は基礎年金を全額税で賄うには消費税換算で4.5%～13%、つまり今の5%に加え4.5%～13%必要だと試算しています。

他にも医療が崩壊状態になってきており、救急とか小児が特にひどい状態です。これをなんとかしなければ、というのが国民の大きな声です。さらに介護と医療の連携で問題になっている社会的入院があります。入院期間が長くなると診療報酬が下がる仕組みになっているので、病院は入院患者をできるだけ早く退院させようとしています。退院させたときに受け皿になるのが介護ですが、介護の施設が充実していません。そこで医療と介護の連携を図った一体的な改革が求められますが、そのための費用は、社会保障国民会議の試算では消費税率換算で4%必要です。

単純に足すと消費税は少なくとも現行の5%のほかに、全額税の基礎年金分4.5%、医療・介護の充実分4%を足すと、13.5%になります。これは私の私案ではなく誰が計算してもこうなります。

社会保障国民会議は、政府に都合のいいようにデータを作っているといわれるのを恐れて、試算の元になったデータや計算式を全てホームページで公開しています。ですからこれらの数字はある程度、信用してもいいでしょう。社会保障を考えていく上での前提になります。

日本は費用の割には比較的効率の高い医療とか介護の体制を整備してきました。その結果として例えば一人当たりの外来受診回数は日本が世界最多となりました。受診回数が多い事は悪い事ではなく、早期診断・早期治療ができるという意味では良いことだと思います。

イギリスではいきなり病院へ行くと全額自己負担になります。開業医の所へ行ってもそこで紹

介状をもらわないと病院へ行けないシステムになっています。

その点で、日本ではいきなり大学病院や国立病院で受診できます。大学病院や国立病院は本来、難しい疾患の患者を診るところで、そこへ風邪程度の患者が気楽にいくことへの批判がありますが、半面、フリーアクセスという自由を受診できる体制があるからこそ乳児死亡率の低さは世界1位、平均寿命は女性世界1位、男性3位、健康寿命は男女共世界1位で、総合評価でも世界1位が達成できたのです。

こうした社会の隅々まで行き届いた社会保障制度を、これからも維持し充実させていかなければならないと考えますが、そのためには新たな財源が不可欠です。今まで財源問題というところの党も避けてきたのですが、参院選が終わると消費税についても本格的に議論されることになるでしょう。

新党「立ち上がれ日本」共同代表で元自民党の与謝野馨さんが近著「民主党が日本経済を破壊する」の中で、社会保障制度と科学技術について触れています。良い指摘だと思うのは“優先すべきは成長政策であり、潜在成長力は国力そのものであり、持続的な社会保障制度の前提となる”“研究開発と人材教育、技術イノベーションこそが成長の原動力である”と言っている点です。

言い換えれば科学技術の発展を維持していかない限り、社会保障制度に必要な財源は生み出せないということです。こういう視点で見ている方は自民党の中でも意外に少ないのです。民主党では聞いたことがありません。

私も工学部出身の人間として、日本の社会保障制度を支えるのは科学技術でありこれからも変わらないと確信しています。名工大の現役の方も卒業された大先輩の方も含めて、科学技術の大切というのをこれからも声を大にして訴えていってほしいと思います。

雑駁な話しになりましたがご清聴ありがとうございました。



企業トップセミナー

TOP SEMINAR

「夢」と「気」多元的世界観を持つ

NTN(株) 鈴木 泰信 (K34)

ご紹介にあずかりましたNTNの鈴木です。NTNという会社の名前をご存知でない方が多いと思いますが、新幹線や航空機のジェットエンジンに使われているベアリング、最近では人工心臓に使われる小さなポンプ、皆さんに近いところではハードディスクドライブに使われているモーターの小さなベアリングを作っている会社です。皆さんの先輩方も含めて世界で2万人の従業員がおり国内には6,000人ほどおりますが、その中で約100人は皆さんの先輩に働いてもらっています。

まずは皆さん入学おめでとうございます。私も皆さんと同じ様に50数年前にこの大学に入学し、卒業しました。特に思い出に残っているのは伊勢湾台風の時に卒業したことです。皆さんのおじいさんくらいの年代です。73歳になります。ありがたいことに元気で経済社会の中で働かせて頂いておりますので皆さんに少しお話をさせていただきます。リラックスしてお聞き頂ければ幸いです。演題は『「夢」と「気」多元的世界観を持つ』です。世の中には色んなものの考え方があり、若い方にはそれにチャレンジをして頂きたいという想いをお話しさせていただきます。

まず最初に、『とりあえず』をやめてほしいですね。行く所もないし大学でも名工大ならいいだろうといった人もいるかもしれません。しかし受験戦争は終わりました。もう一度、進路をリセットして下さい。学問をするという点でもう一度世の中のことを含めて見直して頂きたいのです。とりわけ大切なのは社会人として生きていく資質であり、ぜひ身につけてほしいと思います。



講演をする鈴木泰信氏

私の学生だった時代、大学生は学生服を着ていました。ですから、居酒屋や町中で少々はめをはずしても学生だからしょうがないと分かってもらえることもありました。今は通用しません。学生服を着ていない大学生は社会人と同じです。大学生のうちに社会人としての規範を身につけてほしいと思います。

親の躰（しつけ）が大切です。最近は海外の人達が箸の持ち方をずいぶん気にしているそうです。皆さんも子供の頃に親から躰られたでしょう。世界のあちこちに行くと日本食がブームになっていて箸の持ち方を教える場面によく出くわします。皆さんが親からどう躰けられたかは箸の持ち方でわかります。仕事の場でも昼食会をよく開きますが、その時に箸の持ち方が非常に気になります。皆さんも自分の箸の持ち方はどうだろうか、もう一度気にしていただきたいと思います。

人間にはいろいろなタイプがあります。理系の方々はどちらかというとI型人間が多いのではないかと思います。I型人間は自分の専門分野については詳しいが、他の分野には知識・関心を持たない人です。そうではなく、T型人間

になってほしいと思います。T型人間は、深い専門知識と幅広い分野に関する知識を兼ね備えた人間です。専門分野を持ってほしいといいますが、学術でもできるだけT型人間になっていただきたいのです。一つはずば抜けてほかの人よりも良いものを残すことですが、それに加えて考えてほしいのです。私は会社に入る時に経済社会の中に入ったら給料が少しでも高くなればというのが本心でしたが、出世はしなくても良いと思っていました。しかし、私はどこの世界でも通用するような人間になりたいと思いました。そのために何か一つでも資格をもっておく必要があるのではないかと思います。大学を出て7年間の実務経験があれば技術士の資格をとることができます。自分もやってみようと思い31歳で技術士の資格をとることができました。当時で技術士の資格をとるには平均年齢が42歳でしたのでまずまずだったと思います。

もう一つ望めるならII（パイ）型人間もあります。II（パイ）型人間はT型人間に加えて、深い専門を2つ以上もつ人間です。私はありがたいことに日本だけでなくカナダに4年、ドイツにも4年、会社が放り出してくれました。あいつは帰ってこない方が良く8年間海外の勤務をいたしましてベルリンの壁を横に見ながら仕事をし、多くを学びました。ベルリンの壁を越えて東ヨーロッパにも何回か足を運び貴重な経験もいたしました。欧米と簡単に言いますが、私がカナダからドイツに転勤になった時に「なぜヨーロッパから逃げていったカナダの地から来たお前に学ばねばいけないのか」と言われました。それほどヨーロッパとアメリカは歴史的にみても違います。日本で欧米というのと現地に行って経験するのでは格段の違いがあります。皆さん方は若いのですから経験すること多くさんあるのではないのでしょうか。ということでII型人間になっていただきたいと思います。

皆さん方は知識は随分ともっていると思いま

すが、知識と知恵は違います。知識と知恵を兼ね備えた人間になってほしいと思います。そのためには観察眼をもってほしいのです。よく感性のある人間といいますが難しすぎます。何にでも感じてほしい、何を見ても素通りしないで感じて下さい。何か変わったところはないかといった目で見ていただいたら、もっと面白くなります。

人間には知力、体力、気力の3つが重要です。この3つを常に取り揃えていないと激動の現在の世界を生き抜いていけません。そのため第一に知力をつけて下さい。知力とは知識と知恵の集合体です。横から眺めているだけで知恵が回っていかないと自分の力になっていきません。そのためには自分の体で体験してほしいのです。

一つを体験すると、それが一つの点になります。空を見上げた星の様に一つの体験が点になり、また本を読んだり新たに経験したことが次の点となります。3つの点があればそれが平面を作り、4つになると立体を作ります。例えば地震の震源地を見つけたいとき、1点の観測ではどうしようもありませんが3点あれば震源地がどこの辺りかがわかります。そして4点になれば深さも想定できます。いろんな型がありますが皆さん『自分の型』を作して下さい。そうするとものの考え方も変わってきます。

次は基礎学力についてお話しします。これから学部入学される皆さんは2年間学ばれる教養課程がとても大事です。とくに実験をおろそかにせず、物の取り扱いなどは体で覚えることです。私も卒業論文を書く時には自分で実験装置を作ったりしました。実験に使うガラス管を曲げようとしてもうまく曲がりません。ビニールホースを想像するとわかりやすいのですが、ビニールホースを曲げるとその部分がへこみます。へこまない様に曲げるにはどうすればいいか。また液体ヘリウムを取り扱う時にその物理的性質がわからないと困ります。ビーカーの中

に液体ヘリウムを入れると超流動性という物理的性質がありますので、ビーカーの壁をつたって中にある液体ヘリウムが全部外に逃げてしまいます。ですからふちの狭い瓶の中に入れて移動しなければなりません。皆さんは高校で勉強されたかもしれませんが、物理的性質、化学的性質を知っていないと大変なことになります。よく世の中でガス爆発などの事故もあります。そのガスは空気より重いのか軽いのか、皆さんは化学記号ですぐに答えがでるとおもいますが、現実はどうなのでしょう。教養課程では物の取り扱いについては失敗もあるでしょう。人体に影響があるような危険なことは避けながら、できるだけ多くの体験をしていただきたいと思います。

先ほどもいいましたが1つの点が2つになれば線になります。是非若い人には色んなジャンルの本を1冊でも2冊でも読んでいただきたいのです。私の会社にも数十名の新入社員が入りました。若い人には給料の10%を本に使ってほしいとお願いしました。本以外のジャンルはあるし、本を読まなくてもネットを使えばすぐに出てくるということもありますが、しかし是非自分でお金を払って読んでほしいと思います。

また次にお話したいのは「歴史を学ぼう」です。日本史だけでも大変ですが、世界史、世界の色んなジャンルを学ばないといけません。海外勤務をしているうちにやっぱり歴史は大切だと思うようになりました。日露戦争で日本の連合艦隊がバルチック艦隊と闘いました。日本からではなくロシアからこの戦争を見ることが大切です。バルチックは何処かといえばバルト三国があるバルト海です。ロシアではバルト艦隊といいます。また、私はドイツにいた時にウォータールーへ行きました。ナポレオンの軍隊が負けたあのウォータールーです。なぜ負けたかという、ある日の早朝に雨が降ったからです。なぜ早朝に雨が降ったくらいで負けたかという、大砲も騎兵もぬかるんだ地面で動きがとれ

ず走れなかったからです。それぞれの状況によって臨機応変な行動がとれるかどうかです。若い人は旅行をして世界各地を実際に見てほしいと思います。歴史を学んでもらいたいのです。

1ヶ月前に中国を大連から北京、洛陽、上海、南京とぐるっとまわってまいりました。半年も見ないと中国はどんどん変わっていきます。中国からは日本の新幹線技術がほしいと要請があります。我々はそれに対して日本の技術の移転をどの程度にするのか、日本と中国の間で歴史をひも解きながら考えているところです。皆さんももう一度歴史をひも解いて下さい。

皆さんはこれから勉強するわけですが、今度4年生になる先輩は就活を一生懸命しています。私も面接に立ち会うことがあります。その時初対面の相手にどういう印象を与えているか考えて下さい。これからは朝起きた時に自分の顔を鏡で見て下さい。笑った時、怒った時、どういう顔をしているのかということも大切ではないかと思うからです。年を取ってまいりますとその方の顔を見るだけで歩いてこられた道が大体わかります。色んな会社のトップの方とお会いしますが、その時に相手の方にどのような印象を与えるかによって仕事や色んなことの発展に拘ってきます。これからそういう機会が一杯でてきますので今から心掛けて下さい。

先ほど感性を磨けといいましたが、『感じる人間』になってほしいと思います。電車に乗っても若い方でもサッと席を譲ってくれるような人もみえます。要は何を見ても感じる人になること、それが学問を追究していったり経済社会の中で重要なポジションを掴むことになると思います。

だれでも不得意なことがあります。たぶん名古屋工業大学に入ってからられる方は語学が苦手という方が多いであろうと推察されますが、これから何十年生きていく中で克服できると思います。私も名工大に入った時、国語と英語が苦手、カナダに転勤になって大変でした。大学

を出てからでもロシア語を勉強しようと思って続けた経験があります。何でもやってやろう、見てやろうという気持ちで失敗を恐れしないで下さい。何でもチャレンジをしてください。部活動にも参加してください。

今まで皆さんは失敗の無い生活を送ってこれたかもしれません。社会に出て成功するには成功体験は必要ですが失敗体験もしてほしいのです。若い時の失敗は会社としても大きな損害にならないのですが、年令を重ねてからの失敗は大変なことになります。上司の方も許せる程度の失敗なら許せる失敗がありますし、原因と対策を考える良い機会ともなります。若いうちにそういう経験をしてほしいと思います。

最近メールが随分行き交っていますが、メールだけでは世の中を渡っていきません。最後は顔と顔、face to faceでお付き合いができることが大切です。メールでばかりやっていて、いざ顔を合わせると質問にも答えられない、ただ待っているだけで自分から動けない人がいます。部活動の中での先輩・後輩や仲間との付き合いはそのよい機会です。自分の意見を言える人になると共に、ディベートができるようになって下さい。これから皆さんも海外に行く機会があると思いますし、海外から来られる人と付き合うこともあると思います。日本人はディベートが下手で、相手から何故だと言われるとそれだけで意見が言えなくなってしまいます。ああいえばこう言うといった訓練も学生時代からやっていただけるとありがたいです。そのためにはグループで face to face で意見の交換をする、そのためにも部活動が大切だと思います。

次は『設定力』と『解決力』です。皆さんの今までの生活はどちらかといえば、問題をだしてもらってそれに解答する力はあると思います。数学の問題を解くのはできるのですが、自分で問題を作ることができるのでしょうか、これは設定力です。今までは卒論にしても先生が課題を出してくれて、それに対して実験をする

なりして解決をする。そういう力はお持ちだと思いますが、自分で問題を設定して壁を越えようとする力が必要になります。今まで受験勉強は受け身できたのではないのでしょうか。私の会社でも指示待ちの社員が多いと思います。

皆さんは携帯電話を持ってみえると思いますが、電話がかかってきたというとオフィスの電話を取らない人がいます。取っても相手のお客様と会話ができない人もおります。メール人間が多過ぎます。こういうことを解消するには、自分に問題を解決する力、設定する力を養わないといけないと思います。

問題を設定する力が未来を開きます。知恵と知識は皆さん培われてきたと思いますが、その上に独創性と創造性があり、知恵、知識とその上の独創性、創造性との間には壁があります。これを超えるためには常に自分自身で問題を発見し、設定しなければなりません。知恵や知識まではいけるでしょう、しかしそれを超えないと新しいことに繋がりません。これは連続ではないのです。よく創造性や独創性を持てといわれますが、そう簡単にはもてません。そこには『不連続の壁』があります。つまり問題の設定力があるかないかで、より創造性を発揮しようとするときに問われる課題であると思います。

私は親からずっと短気だといわれていましたし、今でも短気です。以前親にこんな話をすることがあります。それは松の木を枝打ちをする。節ができ、木はその節を隠そうとしてその分膨れてきて何年かすると隠れてしまうという話です。人間も欠点はあるけれど無くそうと努力します。皆さん若いのですから「できた人間だな～」と言われたい方が良いでしょう。「あいつは気が短いな～」「あいつは…」と言われてもかまいません。それを直す努力をしてほしいと思います。そうすることで人間形成において重要なポジションに就けるのではないのでしょうか。失敗を検証することで自分の型を破ることが大切です。

最後に『夢と気』についてお話しします。皆さんも夢を持ってほしいと思います。ただ追いかけるのではなく夢を描いて実現させることが大切で、それは毎日の積み重ねなんだと思います。それと同時に『気は氣に通ずる』ものなりで、相手はよく見えています。要は相手に自分のオーラをどう与えられるか、相手がどう評価してくれるかを考えてください。『夢と気』、それに『やる気と元気』が大切です。

最近はどうか知りませんが我々が学生の時には企業の実習を夏休みにしており、私も桑名の鋳物工場や航空機を作っている工場へ行って実習を受けました。チャンスがあれば企業で1週間でも3週間でも実際の現場がどうであるかを味わっていただくのが必要かもしれません。

『青い鳥症候群』にはならないでほしいのです。生産現場での実習をしていただきたいと思います。これは私どもがベアリングを作っている中で、学生時代の経験が企業に役立っているからです。我々が開発しているインホイールモーターは、今後電気自動車に採用されていきますが、2000年の頃にベアリングやエンジンが近い時期に無くなるかもしれないと、若い研究者が研究を始めた結果であります。これは我々の会社だけではなく、皆さんも色々な所で活躍される場面が出てくると思います。そのためには設定力、解決力というものを“NTNの鈴木がしゃべっていたな～”と思い出していただけたいと思います。

ここに世界地図があります。皆さんがこれまで学校で使われたのは日本が中心にあるものだと思います。私たちの会社は世界中にあります。こちらはヨーロッパを中心にした地図です。私どもの会社はブラジルにもありますがどうやって行くか、日本からだとは30時間かかります。しかしフランスにも子会社がありますので、ブラジルへは日本からではなくフランスから行きます。フランス人が日本の設備を使ってブラジルで物を作るのに日本から行く必要はありません。

フランスからブラジルへは12時間で行けます。ある時ブラジルに行った日本の首相が「地球の裏側のブラジル…」と言って大ひんしゅくをかいまして。北半球というからブラジルは裏になります。宇宙から見たら地球の裏側もブラジルも表側の日本も一緒なんです。オーストラリアの人は「なぜオーストラリアは地球の下側なんだ」ということで彼等はオーストラリアが上にくる世界地図を作りました。物の見方には色々あるし色々な切り口があります。固定せずに見てほしいと思います。若い方は色々な経験をしながら問題点の絞り込みをして下さい。そういう力をぜひ養っていただきたいのです。世界には色々な地図があり、アイデンティティがあります。自分達は日本を中心にして世界を見ていますが、そういった固定概念は捨ててほしいと思います。

それと同時に皆さんが今日までこれたのはご両親の愛情や家族の人達の力があってのことです。家族に大いに感謝し、これからも大切にさせていただくことを最後をお願いして、私からのお話を終わりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

講演終了後に高橋学長から鈴木会長に名誉博士号の授与が行なわれた。



名誉博士号を授与された鈴木会長(右)

「名古屋市営バス135号線」

傘をすばめて
人いさで満員のバスに
私は乗り込み料金を払った
赤いツーピースの女性の横に立ち
私は吊革をしっかりと握る
バスが動き出すと
背後の女子学生が
ぬれた床に足を取られる

車内の40人おのおのが
雨水のしたたる傘を手に
熱気と体臭とポマードと香水を一度に嗅いで
梅雨だからと変に合点したり
夕刻のバスだからと疲労を感じたり
空気が悪いからと窓を開けるから
6月の雨は意地悪く窓際の少年の服を濡らす

膝の上で揺れている衛生関係の本からすると
その女性は看護学校の生徒らしい
その手がそっと曇りガラスを拭った
窓の中の街並みはシネマか蒔絵のように
市バスは妊婦のように身を重くして
信号に愕えて止まり
安堵して動いている

40人がやがて50人ほどに膨れて
行き先だけを共にする同乗者たちだ
言葉を交わすことは人数が増えて必要なく
ただ他人の足を踏んだり
席を譲ったり
盲人に出口を知らせたり
そんなときに
会話が生まれ心が通い合うのを
私はバスの中で見ていた

疲れた表情の中年男が短い竿を4本持ち
それを杖のようにして空席に腰を落とす



竹村 誠二 (A57)

その前席に足でリズムを取りながら
車内のどこからともなく生じるざわめきに
掻き消えてしまう声量で
譜面に見入る学生がいる
私の前に座っている看護学校の生徒は
目のやり場を求めて
再び曇ったガラス窓を拭った
外は暗くなりかけていた

その時、街並みが激しく揺れて止まった

私は驚いた
それまであった車内の雑談や同僚との笑い声や
傘で床を叩く音が一瞬やみ そのあと
100の目が運転手に向けられていた

乗客たちは車内にささやくような雑言を満たし
そしてまたとりとめのない衆人に戻った
市バスは数人の乗客を降ろし
平生通りの運転手のハンドルさばきで
夕闇を走り抜けて終点へと急いだ

解説：昭和50年代に書きましたものですから、今読み返すとノスタルジーを感じます。そのころ家庭教師のアルバイトをしていました。それで名古屋市立大学病院前からバスに乗って南区まで通っていたのですが、この詩はバスの中の情景をそのまま描写したものです。

随筆

景雲飛翔 山田幾穂先生（D25）一周忌追悼

加地 理泰（D30）

昨年（2014年）の4月末、午後、名古屋地下鉄、桜本町駅から歩いて数分の北村病院に先生をお見舞いしました。これが最後となり、約1ヵ月後にお亡くなりになりました。

お見舞い当日は快晴で、先生は二階のベッドに横たわり、開けた窓から青空を眺め、「雲が面白い。手前のビルは邪魔だ。」と言われました。その時、フッと私の頭に浮かんだのが「景雲飛翔」でした。これは、山田幾穂先生退官記念誌（平成5年同事業会）の表題でした。その節、先生から式典参加者全員に、金色のテレホンカードを戴きました。それにも先生直筆の「景雲飛翔」が黒字で印刷されていました。その意味ですが、同誌の序文には、「先生にお聴きしたところ、“累々として雲が景気良く大空に舞い上がる雄大な光景のように、仕事を始め、万事おおらかに運ぶ気分を意味している。”とのことでした。先生のご研究に対するこれまでの一貫した姿勢とまさしく一致しており含蓄のある表題でございます。」と記されています。先生のご関係された論文は、同誌によると1956年から1993年の37年間に亘ります。蒸留・抽出・吸収が69件、数値解析・流れ・熱が35件、平衡・物性が15件、石炭・タール・反応工学が7件、その他の著書15件、総説など30件、集計すると171件です。多い時は1981年の11件で月1件のペースです。病床で先生は、白雲がビルの陰から青空へ次々と湧き上がるのを眺めながら、ご自身が関与された多数の論文に思いを重ねておられたと拝察します。

昨年12月5日、浩養園で山田幾穂先生を偲ぶ会が盛大に催されました。95名の化工研OBが参加しました。其の席で司会の森秀樹先生から、山田先生が瑞宝中綬章正四位に叙勲されたと披露されました。新垣元教授は、山田先生を病床にお見舞いした際、「フェルマーの最終定理」のお話をすると、先生は大変興味をもたれたと語られました。多田教授も先生を偲んで挨拶をされました。化工研OBを代表して元群馬大の



山田幾穂先生

加藤邦夫教授が「山田先生は、私の生涯の恩人です。」と先生を讃え、乾杯の音頭をとりました。更に、愛弟子の緑静男君は、尺八で哀悼の調べ「夕月」を奏しました。先生は草葉の陰で、鎮魂しさぞ喜んでおられたことでしょう。

昭和44年、大学紛争が起こり、先生は学生課長として大変苦勞をされました。学園を正常な軌道に戻すことが出来ず、後年「これが大過でなくて何であろうか？」と回顧されました。大先輩の加藤雅樹氏（D12）も山田教授の要請で城戸学長代行と共に、対応の相談にのったと言われます。先生は研究、教育ばかりでなく、大学や学会の運営にもご熱心でした。更に、国際交流、特に韓国に対しては、特別にご尽力されました。化学工学研究室は増強倍加し、多くの俊秀が巣立ちました。先生の秘かな誇りであり、教師冥利に尽きたのではないのでしょうか？先生の心は限りなく寛く、また優しい方でした。私が前述、病床を見舞った際、「M君がしっかりやってますよ！」と申し上げたら、先生は「ほうか。」と言われ、やおら、頭の下枕を取り出し、豪快に顔を拭われました。長年の深い師弟関係が、万感胸に迫ってのことだったのでしょう。最後に力を振り絞り、ベッドに腰をかけて「ありがとうな！」と力強くお礼を言われ、お別れしました。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。

合掌

情報 ネットワーク

尾張支部総会報告

今回の総会は、平成22年4月10日（土）に稲沢市民会館小ホールで盛大に開催できました。

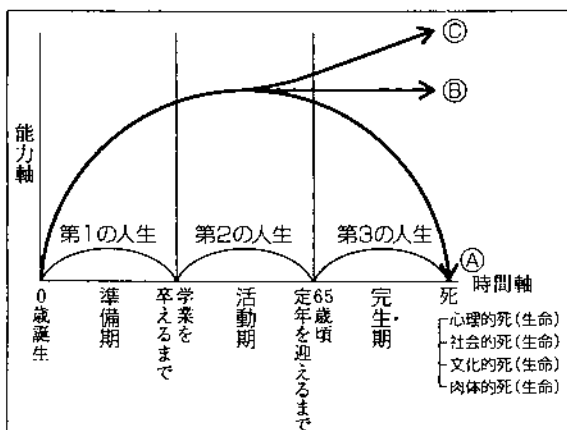
当日は来賓として、名古屋工業大学新学長・高橋実様と本部理事長・篠田陽史様（M33）をお迎えし、会員の参加者は53名（内初参加の方が11名）でした。

第1部は支部総会。玉田支部長挨拶に続いて高橋学長と篠田理事長に来賓挨拶をお願いしました。次いで平成21年度事業報告、同会計報告、同会計監査報告、平成22年度事業計画(案)及び役員改選(案)の説明を行い、承認を得ました。

第2部は特別講演。講師の同朋大学社会福祉学部教授&経済学博士・伊東真理子先生は、平成13年度と平成17年度に続いて今回が3回目。同先生を紹介していただいたのは、薫風会理事長・佐藤和夫様(E22)で昨年12月に急逝されました。また、尾張支部役員で長年活躍していただき、昨年4月に逝去の橋本坦様（R22）、本年3月に逝去の足立達雄様（D20）並びに物故者のご冥福をお祈りして黙祷を捧げました。

講演のテーマは『サクセスフル・エイジング（歳を重ねるごとに成功する）－パート2－』。次図で日・北欧・米での高齢者の質的内容比較を紹介していただきました。

人の人生は、旬のとき即ちプラトー（小山）を超えると、A線のように放物線を描いて落ちていくものと捉えがちだ。他方、北欧においてはB線のようにノーマライゼーション（継続性）といって、死ぬまで一番良いときを継続するAge in placeという提案をしてきた。しかし、



アメリカ老年学会はそんなことに満足せず、人間とは高齢期といえども「成長して成長して、もうこれ以上は成長できないところまで成長して死を迎える〔The final stage of growth〕」と成長理論に基づいたC線を描いて見せたのだ。これぞ正に、サクセスフル・エイジング!!といえよう。わが国の人物の中からC線の実例として、江戸時代後期を代表する浮世絵師の葛飾北斎は、老年学の世界でも光り輝く存在だとエピソードを話されました。以下略。

第3部はミニコンサート。ソプラノ・平康悦子さん、フルート・大西圭子さん、ピアノ・柳河瀬貴子さんでクラシックを楽しみ、アンコールでは全員で「ふるさと」を合唱しました。



第4部は記念撮影。特別講演の講師、ミニコンサート出演者にも入っていただいたのスナップです。



第5部は懇親会。魚住養正様(W22)様に乾杯の音頭をお願いし、講師・コンサート出演者も参加、立食パーティーで歓談していただきました。初参加者が皮切りの自由スピーチも好評でした。中締めは、井上富夫様（D28）にお願いして閉会しました。お陰さまで今回も楽しい総会を開催することができました。

記:尾張支部長 玉田欽也（W32）

卒業満54年のW31会報告

W科昭和31年の卒業生は「W31会」という名称で、クラス会を毎年開催している。今年は、5月25日(火)に名古屋駅西の「名鉄ニューグランドホテル」を会場に開催した。卒業41名中現在の生存者は33名、今回の出席者は17名である。この内大部分は名古屋市と愛知県在住者である。今回は三重県、静岡県の在住者が各1名出席した。首都圏や関西圏などの在住者は7名ほどいる。しかし、高齢化するに従い欠席する人が多くなってきた。

今回の出席者は、人生の節目である「喜寿」も無事過ぎて、比較的元気な人が多い。しかし、病気や故障持ちの人も多いようである。話題と言えば病気や病院のこと、飲んでいいる薬のことなど、若いころの話題に比べると深刻である。脳梗塞から無事回復した人や、腰や膝の故障で歩行が困難になった人など、それぞれ問題を抱えている人たちも多いようである。

在学中から飛びぬけて元気であった西脇良夫君が久しぶりに出席した。彼は在学中「ヨット部」に在籍して活躍していた。現在も彼は国内各地や国外の「鉄人レース」や「フルマラソン」に常時出場している猛者である。彼の言によれば「鉄人レース」では、常に最年長の部類に入ってしまったそうである。しかし「フルマラソン」では、まだ上の年長者がいるようである。今回「フルマラソン」で100回の完走を果たした記念の年であるとのこと「W31会」の級友全員で祝福をする。

会は、亡き恩師と級友の冥福を祈る黙とうから始まる。挨拶、乾杯の後、各自の近況報告があり、1年ぶりの懇談が始まる。時間の経過は早く、和気あいあいのうちに予定の時間になる。最後に次回の幹事挨拶と閉会の挨拶でお開きになった。楽しい一時に満足しながら各自帰路についた。

記：萩野喜一 (W31)



第81回 名工大ごきそ会報告

第81回名工大ごきそ会ゴルフコンペが、平成22年3月30日(火)に難コースで知られております名古屋市郊外の東名古屋CC西コースで、会員16名の参加をえて開催されました。

当日は、前日までの冷え込みは何処えやら小春日和に恵まれてのプレーとなりました。期待をしておりました満開の桜は、異常気象のせいか期待はずれとなりましたが、七部咲きのもと全員和気あいあいのプレーを楽しむ事が出来ました。成績は、優勝がベテランの寺西鋼三氏(K33)、2位は、森川民雄氏(W45)、3位が泉地正幸氏(W44)、ベストグロスは、シングルの梶原俊彦氏(B45)が獲得されました。プレー終了後、コンペルームで成績表彰に引き続き、反省などに話しがはずみ、次回も元気に参加する事を誓い合って散会いたしました。今回は、代表幹事の森様と常任幹事の柴田様が、残念ながら欠席となりました。

記：坂本修造 (A35)

第202回 名工会東京支部ゴルフ大会報告

第202回ゴルフ会は恒例の本厚木カンツリークラブにて3月29日(月)に開催されました。名物の桜は3分咲きでしたが、十分楽しみ、25名全員が元気にホールアウトしました。

続いて入賞者の表彰式、米寿のE18本間吉夫氏、喜寿のE33石川二郎氏、古希のM39津田卓美氏、E39吉田嶽彦氏に記念品を差し上げお祝いしました。

記：藤田正浩 (E33)



計 報

鈴木 強 ⑫18 H 20. 1. 1	加山 悟 B55 H 22. 3.	豊島 和典 M24
加茂 弘 K29 H 12. 7. 17	間瀬 倫 C16 H 22. 2. 11	常世 三良 M20 H 21. 12. 23
古沢 勲 K29	田宮 進 D17 H 22. 3. 17	千代延 尚資 M32 H 18. 7.
吉川 彰 K29 H 13. 5. 13	粥川 嘉雄 A28 H 22. 2. 12	川喜田 効 C29 H 22. 3. 4
青山 謙 D⑤ H 21. 10. 9	渡辺 廣二 A29 H 21. 9.	足立 達雄 D20 H 22. 3. 6
後藤 義孝 W12 H 21.	欄 篤 A19 H 21. 10. 9	間野 松治 E23 H 22. 2. 28
青山 滋 W35 H 21. 3.	園部 一男 K29	麻生 哲男 Y35 H 22.
米田 宏 M33 H 21.	森本 尚義 K29	松原 健三 W32 H 22. 2. 13
山田 雄績 C25	守山 茂一郎 E32 H 21. 11. 10	滝 勇 M12 H 22. 3. 6
海老名 秀郎 A22	加藤 ^(旧姓) 常夫 M22 H 21. 1. 9	本多 秀誠 W32
武田 信里 K23	久保田 繁夫 E18 H 21. 11. 2	安藤 治夫 E19 H 22. 4. 2
山本 浩 F60 H 21. 12. 3	近藤 雅昭 E23 H 21. 10. 25	宮崎 一男 D12 H 21. 12. 30
大矢 紋男 M25 H 21. 6. 21	塚本 総一 Es63 H 21. 10. 13	服部 一夫 M15 H 21. 6. 5
廣瀬 皓二 E29 H 22. 1. 13	楠葉 幹雄 C29	大澤 典夫 M23 H 22. 1. 15
青木 治夫 C14 H 21. 10. 24	松山 吉作 M19	深谷 一 C28 H 21. 11. 6
中井 鑑 M5 H 21. 12. 2	田中 英嘉 M24 H 21.	岩田 周一 M20 H 21. 12.
岩藤 幸正 A31 H 21. 1. 15	桐村 重喜 M32 H 21. 7. 11	白井 一男 M17 H 22. 5. 11
北岡 明 C21 H 17. 4. 9	近藤 善三郎 E13 H 21. 9. 4	勝野 幸明 ⑫19 H 22. 4. 3
真野 鉦治 M9 H 21. 12.	青木 稔 D16 H 22. 1. 1	牧 博 C14 H 22. 4. 11
太田 勝次 M23 H 19. 12.	大岩 義一 C32 H 21. 11. 8	林 友一 C12
西尾 雄二郎 M47 H 17. 11.	碓氷 祐郎 ⑤22 H 19. 3. 11	五月女 久郎 E36 H 22. 5. 2
大門 啓志 Y46 H 21. 12. 29	横井 陸三 M18	山田 道夫 E23 H 22. 5. 17
笠井 重行 C23 H 20. 6. 23	笥 洋一 IID42 H 21. 5.	堀部 澄夫 M15 H 21. 8. 18
杉原 義則 E35 H 20.	伊藤 保彦 C20 H 21. 11. 17	

謹んで哀悼の意を表します。

名古屋工業会の本部関係会議情報（平成22年5月～22年6月）

○連携強化委員会 5月18日(火)18:00～

議題1 平成21年度の活動まとめ

議題2 平成22年度の活動計画について

(1)第二部実務型教員による授業を継続して実施

(2)キャリア形成ガイダンスの実施計画

7/7に講師2名で実施することを承認

(3)企業OBトップセミナー

11月に実施するための講師等について検討

○広報委員会 6月3日(木)18:00～

平成21年度の活動について報告

○運営委員会 6月8日(火)18:00～

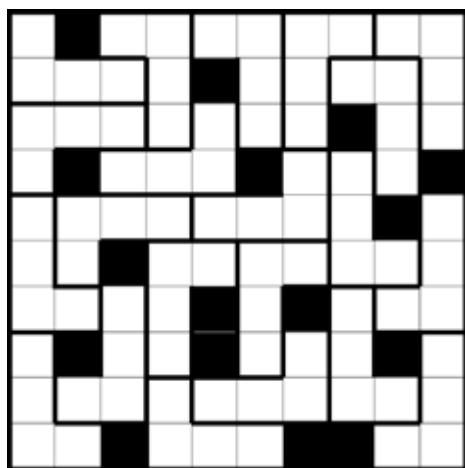
議題1 平成22年度事業計画について

議題2 実務委員会の編成について

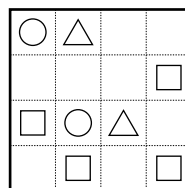
ごきそでパズル

今回のパズルは「おなじのつながぎ」です。
盤面にある同じ記号を2つずつ線でつないでペアを作ってください。
1つのマスを通ることのできる線は1本だけです。

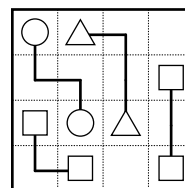
(前回の答え)



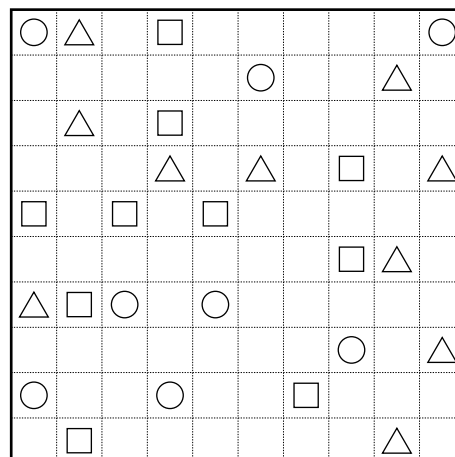
(例題)



(答え)



問題



解答は次号に掲載します。

パズル：稲葉直貴 (EJ⑬) 作

編集後記

今回の通常総会報告にありますように、名古屋工業会が新執行部体制でスタートいたしました。「ごきそ」の編集も今号より、新しい広報委員会での編集となります。我々、新広報委員会も、北村先生・犬塚先生をはじめ、前広報委員会の方針を引き継ぎ、会員皆様の相互親睦や情報発信にお役立ちできる「ごきそ」の編集をめざし、微力ながら努力してゆく所存でございます。

ます。名古屋工業会は公益法人改革を控え、ますます、「ごきそ」のはたす役割は大きくなると思われます。工業会・各支部・各単科会および、学内の情報に加え、会員皆様の近況など、積極的にお知らせしていきたいと思っております。皆様のご支援よろしくお願いいたします。

(W61 樋口真弘)

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・パンフレット・ポスター 定期刊行物 etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げられたノウハウはDTPにおいて、特に不得意とされる版組みの書籍・表組みの買物も得意分野です。

印刷

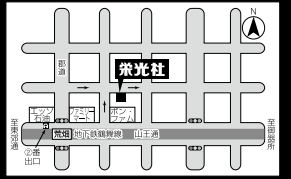
カラー印刷・2色刷り・1色刷り・特色刷り・品質・部数・ご予算に応じて提供いたします。
Macintoshのみならず、ワード・太郎等の通常オフセット印刷に適さないWindowsデータの出力ノウハウもありますのでご相談ください。

製本

自伝・体験記・詩歌・俳句・小説・エッセイ・雑誌・絵本等、自分の本を作りたいとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本でお困りの学生・法人の方、少ロットよりお手伝いします。

総合印刷の 有限会社 栄光社

〒466-0014 名古屋市昭和区東畑町一丁目42番地
TEL (052) 741-7701
FAX (052) 741-7703
URL <http://www2.pcn.ne.jp/eikou/>
E-mail eikou@theia.pcn.ne.jp



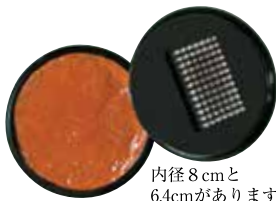
—いつも綺麗な捺印を—

印鑑や篆刻の印面に朱肉や紙粉が詰まり、捺印しても印影が綺麗に写らない場合があります。

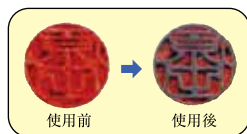
そんな時、この“朱おとし”をご使用ください。

印面を傷付けず汚れを取り、綺麗に捺印することができます。

ゴム印のゴミでも綺麗に落とせます。



内径 8 cm と
6.4 cm があります



使用前

使用后

名古屋市西区名駅二丁目3番17号

名豊工業株式会社

代表取締役 原田 直輝 (D41)

電話 & FAX 052-541-6919

(株)ブライダルは 名古屋工業大学会員の皆様の 「結婚」を応援します。

32年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってくだされば

会員サポート費 **50% OFF**

ブライダルコース ¥220,500 ▶ ¥189,000 etc.

エクセレントコース ¥378,000 ▶ ¥330,750 etc.

●ミドル・シニアの方々のプランにも特典がございます。

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

- 成婚率は業界トップクラス。
- 入会審査有り
- 都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
- お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。



株式会社 **ブライダル**

お問い合わせ
(月曜定休)

0120-415-412

<http://www.bridal-vip.co.jp>

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

特許業務法人 英知国際特許事務所

EICHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎 孝治



— 知財の総合コンサルタント —



東京本部 〒112-0011 東京都文京区千石4-45-13
TEL : 03-3946-0531(代) FAX : 03-3946-4340
神奈川支部 〒224-0006 神奈川県横浜市都筑区荏田東1-23-2
TEL : 045-532-3827 FAX : 045-532-3828
北海道支部 〒078-8802 北海道旭川市緑が丘東二条4-11-12
TEL : 0166-65-2080 FAX : 0166-65-2080
浜松支部 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町5-11
TEL : 053-461-5662 FAX : 053-460-6027

<http://www.eichi-patent.jp>

社団法人名古屋工業会会誌

「ごきそ」に広告を掲載しませんか!

「ごきそ」は15,000部を隔月発行し、
会員・広告主・関係官庁・各学会・大
学・図書館等に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。

広報委員会

委員長 樋口 真弘 (W61)
幹事 山本 勝宏 (ZW⑥)

秀島 栄三 山口 啓 (C49)
北川 啓介 (A⑧) 安楽 崇広 (M⑨)
小坂 卓 (EJ⑥) 廣瀬 光利 (E50)
朝倉 睦美 (W54) 野中 久義 (D⑨)
本多 沢雄 (ZY⑥) 道家 清正 (Y30)
平野 春好 (K50) 米谷 昭彦 (F60)
杉江 紘 (F院44) 横山 淳一 (Fb⑥)
三田 晴伸

会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>でご覧いただけます。